

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2023/24 年度

生産量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナ等で上方修正されたものの、EU、中国、カナダで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

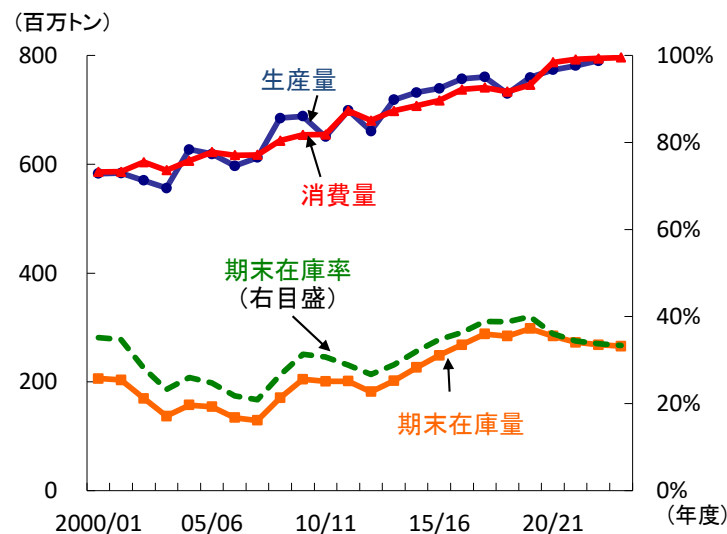
消費量 前年度比  前月比 

- ・ウクライナ等で上方修正されたものの、EU、中国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

- ・ロシアで上方修正されたものの、カナダ、米国で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



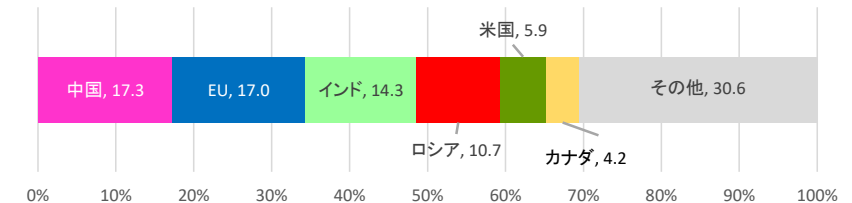
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

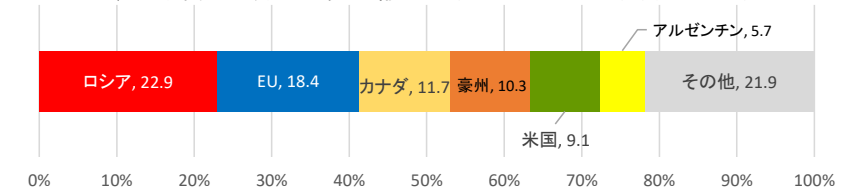
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	781.0	790.0	793.4	▲ 3.3	0.4
消 費 量	792.5	794.3	796.1	▲ 3.4	0.2
うち飼料用	161.1	156.7	156.6	▲ 0.5	▲ 0.0
輸 出 量	202.9	218.6	209.4	▲ 2.2	▲ 4.2
輸 入 量	199.4	211.0	207.4	▲ 0.6	▲ 1.7
期末在庫量	272.6	268.3	265.6	▲ 0.9	▲ 1.0
期末在庫率	34.4%	33.8%	33.4%	0.0	▲ 0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (11 August 2023)

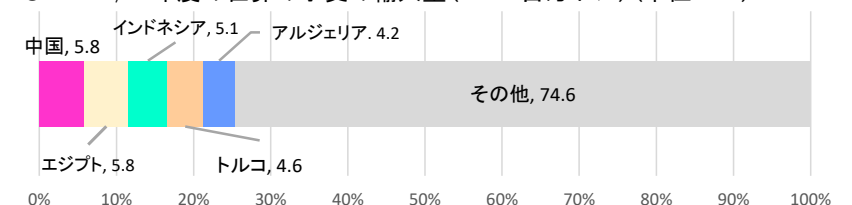
○ 2023/24年度の世界の小麦の生産量(793.4百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸出量(209.4百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度の世界の小麦の輸入量(207.4百万トン) (単位：%)



(2) 国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2023/24 年度の生産量は前月予測から下方修正され 47.2 百万トン

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2023/24 年度の実生産量は、乾燥天候による春小麦の減産から前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 47.2 百万トンと、過去 5 年平均を 3.0% 下回るものの、前年度に比べ 5.1% 増加の見込み。

USDA「Crop Production」(2023.8.11)によれば、冬小麦は、前月予測から 0.6 百万トン上方修正され、33.4 百万トンと前年度に比べ 11.2% 増加も、春小麦は同 0.8 百万トン下方修正され 12.2 百万トンと同 6.8% 減少、デュラム小麦は同 0.1 百万トン上方修正され 1.6 百万トンとなるものの、同 10.3% 減少。品種別の前月予測からの変更は、冬小麦では、ホワイト小麦(WW)が下方修正されたものの、ハード・レッド・ウインター(HRW)、ソフト・レッド・ウインター(SRW)が上方修正され、春小麦ではハード・レッド・スプリング(HRS)等が下方修正された。

USDA「Wheat Outlook」(2023.8.14)によれば、春小麦の生育期間中の天候は、播種時には降雨が多かったものの、その後乾燥天候となり干ばつが広がった。8 月 8 日現在で、春小麦生産地帯の干ばつ地域の割合は、前月の 25% から拡大し 52% となり、前年度同期の 18% を大きく上回った。このため、単収は前月の 3.04 トン/ヘクタールから 2.81 トン/ヘクタールに低下した。

USDA の「Crop Progress」(2023.8.14)によれば、8 月 13 日時点で、主要生産 18 州の冬小麦の収穫進捗率は 92% と前年度同期(89%)を上回り、過去 5 年平均(92%)並みとなった。一方、主要生産 6 州の春小麦の収穫進捗率は 24% と、前年度同期(15%)を上回ったものの、過去 5 年平均(28%)を下回っている。

また、春小麦の作柄を示す「良～やや良」の割合は、42% と前週に比べ 1 ポイント上昇したものの、前年度(64%)を大きく下回った。州別には、特にワシントン州で前年度の 97% から 27% に大きく低下した。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、輸出ペースが低調なことから前月予測から 0.7 百万トン下方修正され、19.1 百万トンと、前年度に比べ 7.7% 減少し、1972/73 年度以降最低となる見込み。輸出価格(HRW の FOB)は、冬小麦の収穫の進展から 7 月 7 日時点の 335 ドル/トンから、8 月 8 日時点で 322 ドル/トンに低下したものの、主要輸出国に比べると、ロシア、EU に比べ高く、世界市場において価格競争力がない。なお、米国産小麦の 2023 年 7 月の輸出量は 177.0 万トンと前年度同期(146.3 万トン)を上回るものの、過去 3 年平均(205.1 万トン)を下回った。

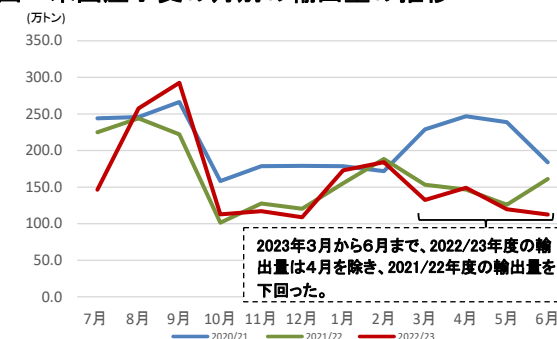
小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

(単位: 百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年6月～24年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.8	44.9	47.2	▲ 0.1	5.1
消費量	29.8	30.8	30.7	▲ 0.1	▲ 0.2
うち飼料用	1.8	2.5	2.5	-	▲ 0.4
輸 出 量	21.7	20.7	19.1	▲ 0.7	▲ 7.7
輸 入 量	2.6	3.3	3.5	-	6.6
期末在庫量	19.0	15.8	16.8	0.6	6.1
期末在庫率	37.0%	30.7%	33.6%	1.8	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.03	14.36	15.33	0.06	6.8
単収(t/ha)	2.98	3.13	3.08	▲ 0.02	▲ 1.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(11 August 2023)

図 米国産小麦の月別の輸出量の推移



資料: USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国

2023年 (2023年7月)			2022年 (2022年1月～12月)			2021年 (2021年1月～12月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	32.6	18.4	メキシコ	376.3	19.0	メキシコ	740.4	17.7
フィリピン	26.4	14.9	フィリピン	228.4	11.5	フィリピン	505.2	12.1
中国	15.2	8.6	日本	212.2	10.7	日本	435.1	10.4
チリ	11.6	6.6	韓国	122.1	6.2	韓国	293.3	7.0
台湾	10.8	6.1	ナイジェリア	117.3	5.9	中国	289.9	6.9
コロンビア	10.3	5.8	台湾	82.1	4.1	ナイジェリア	272.0	6.5
日本	10.1	5.7	イエメン	70.8	3.6	台湾	178.7	4.3
その他	60.0	33.9	その他	775.2	39.1	その他	1,476.6	35.2
計	177.0	100.0	計	1,984.4	100.0	計	4,191.2	100.0

資料: USDA「Federal Grain Inspection Service Yearly Export Grain Totals」

＜ カナダ ＞ 2023/24 年度の生産量は前年度に比べ 1.8%減の 33.2 百万トン

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2023.8.18)によれば、2023/24 年度の小麦全体の生産量は、乾燥天候の影響を受け、前月予測から 2.1 百万トン下方修正され、33.2 百万トンと、前年度に比べ 1.8%減少、過去 5 年平均に比べ 5.0%増加する見込み。

なお、カナダの西部、特にアルバータ州南部とサスカチュワン州西部で厳しい干ばつが継続しており、今後も単収に影響を及ぼす可能性がある。

品種別の生産量は、普通小麦（春小麦と冬小麦）、デュラム小麦とも干ばつにより単収が低下し、それぞれ前月予測から 1.3 百万トン下方修正の 28.3 百万トン(前年度比 0.3%減)、同 0.8 百万トン下方修正の 4.9 百万トン(前年度比 13.9%減)の見込み。

前年度に比べると、普通小麦、デュラム小麦とも減少するものの、デュラム小麦の減少幅が大きい見込み。なお、普通小麦は、収穫の進展に伴い平原三州の南部の干ばつによる被害の程度が判明し、単収が更に引き下げられる可能性がある。

カナダ各州政府によれば、①高温乾燥天候に見舞われていたサスカチュワン州では、8月中旬の各地の降雨が作物に好影響を与えたものの、収穫作業が一時中断し、収穫進捗率は、春小麦は 2%(同 n/a)、デュラム小麦は 2%(同 8%)となっている。②マニトバ州の収穫進捗率は、春小麦は 5%であり、州中央部で収穫作業が進展している。③アルバータ州では、乾燥天候であったものの、8月中旬にかけて降雨があり、小麦の成熟が徐々に進み、作柄状況を示す「やや良～良」の割合は、春小麦で 45%と前年度(77%)を大きく下回っており、デュラム小麦も 32%と前年度(46%)を下回っている。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量の減少による輸出余力の低下により、前月予測から 0.8 百万トン下方修正され、23.8 百万トンと、前年度と比べ 5.3%減少する見込み。

品種別の輸出量は、普通小麦は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、19.8 百万トンと前年度に比べ 1.0%減少。また、デュラム小麦も、生産量の減少により、前月予測から 0.8 百万トン下方修正され、4.0 百万トンと同 15.8%減少する見込み。デュラム小麦は、乾燥天候による価格の高騰に伴い、相対的に安価な小麦を輸入してきた国々への輸出量が減少する可能性がある。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、6 月の小麦（普通小麦、デュラム小麦）の輸出先国は、日本(10.8%)、アルジェリア(10.5%)、コロンビア(8.8%)の順。

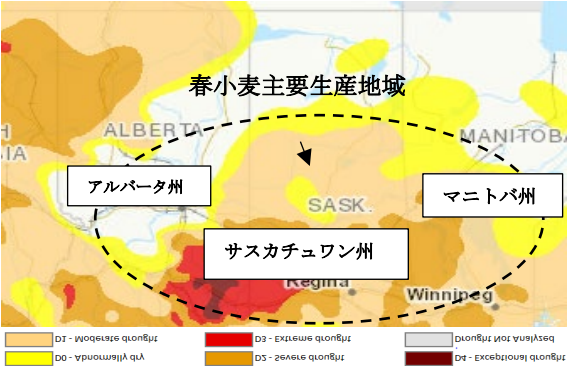
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年8月～24年7月)		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.4	33.8	33.0 (33.2)	▲ 2.0	▲ 2.4
消費量	10.2	10.0	9.1 (9.1)	-	▲ 9.0
うち飼料用	5.2	4.5	4.0 (4.6)	-	▲ 11.1
輸 出 量	15.1	25.5	24.5 (23.8)	▲ 2.0	▲ 3.9
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	-	9.1
期末在庫量	3.7	2.5	2.5 (3.7)	-	-
期末在庫率	14.5%	7.2%	7.6% (11.3%)	0.4	0.4
(参考)					
面積(百万ha)	9.20	10.08	10.60 (10.72)	-	5.2
単収(t/ha)	2.44	3.35	3.11 (3.10)	▲ 0.19	▲ 7.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 August 2023)

図 カナダの干ばつ状況(2023 年 7 月 31 日現在)



資料：AAFC 「Canadian Drought monitor」

図 カナダ産小麦の輸出量、輸出先国

(輸入量：万トン、シェア：%)

2022/23年度 (2023年6月)			2022/23年度 (2022年8月～2023年6月)			2021/22年度 (2021年8月～2022年6月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
日本	19.9	10.8	中国	271.3	11.9	日本	164.4	11.3
アルジェリア	19.3	10.5	インドネシア	183.1	8.0	インドネシア	137.9	9.5
コロンビア	16.2	8.8	日本	171.6	7.5	中国	106.6	7.3
チリ	11.0	6.0	ペルー	142.3	6.2	コロンビア	97.9	6.7
米国	10.6	5.8	イタリア	141.4	6.2	ペルー	84.2	5.8
ペルー	9.4	5.1	バングラデシュ	132.9	5.8	米国	82.9	5.7
その他	97.7	53.1	その他	1,246.0	54.4	その他	782.5	53.7
計	184.1	100.0	計	2,288.6	100.0	計	1,456.4	100.0

資料：Canadian Grain Commission

＜ 豪州 ＞2023/24 年度の生産量は前年度比 26.9%減の 29.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、29.0 百万トンと史上最高の前年度に比べ 26.9%減少する見込み。

また、豪州農業資源経済科学局 (ABARES)「Australian Crop Report」(2023.6.6)によれば、2023/24 年度の実生産量は、収穫面積の減少(前年度比 1.6%減)と単収の低下(同 32.8%減)から 26.2 百万トンと史上最高の前年度から 33.9%減少するものの、過去 10 年平均(26.4 百万トン)の水準となる見込み。

主要生産州では、ウェスタンオーストラリア州(WA 州)の実生産量は、播種面積が前年度から 2 %減少(4.65 百万ヘクタール)し、単収も乾燥天候により減少するため、9.5 百万トンと前年度の史上最高の 14.0 百万トンから 32%減少するものの、過去 10 年平均 (9.6 百万トン) の水準となる見込み。また、ニューサウスウェールズ州(NSW 州)の実生産量は、乾燥天候による単収の低下と播種面積の減少から、7.2 百万トンと前年度に比べ 30%減少するものの、過去 10 年平均 (7.4 百万トン) の水準となる見込み。

GIWA(西豪州穀物産業協会)(2023.8.18)によれば、WA 州の実生産量は、州中央部の大部分で気温が高く、乾燥天候となっているため、前月予測から 0.8 百万トン下方修正され、9.2 百万トンの見込み。

2023/24 年度の実小麦の播種は 7 月に全ての地域で完了している。7 月は WA 州や NSW 州では降水量が平年を下回った一方、土壌水分が豊富であった NSW 州(北部を除く)や ヴィクトリア州 (VIC 州)での作柄は良好であった。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、21.5 百万トンと前年度に比べ 33.8%減少の見込み。この輸出量の減少により、2022/23 年度に小麦輸入量の 46%を豪州から輸入したインドネシアでは、2023/24 年度の実輸入量が減少する見込み。また、豪州の伝統的な市場であるインドネシア、タイ、ベトナム等では、豪州産から生産量の回復したアルゼンチン産にシフトする可能性がある。

また、2022/23 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく 32.5 百万トンであるも、中国やアジア諸国の需要増の見込みから、前年度を 18.2%上回る見込み。同年度の各月の輸出量は、豊富な輸出余力から、2022 年 10 月から 2023 年 5 月まで前年度同期を上回っていたが、2023 年 6 月の輸出量は 257.3 万トンとなり前年度を 5.2%下回った。輸出先国は、インドネシア(19.8%)、タイ(14.8%)、ベトナム(12.1%)の順。なお、6 月の中国向け輸出量は前月の 79.5 万トンから 13.7 万トンに減少した。

小麦－豪州(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年10月～24年9月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	36.2	39.7	29.0 (27.9)	-	▲ 26.9
消 費 量	8.5	8.0	7.7 (8.2)	-	▲ 3.8
うち飼料用	5.0	4.5	4.2 (4.5)	-	▲ 6.7
輸 出 量	27.5	32.5	21.5 (21.0)	-	▲ 33.8
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.5	2.8	2.8 (1.8)	-	-
期末在庫率	9.6%	7.0%	9.7% (6.3%)	-	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.73	13.05	12.50 (12.8)	-	▲ 4.2
単収(t/ha)	2.85	3.04	2.32 (2.18)	-	▲ 23.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 July 2023)

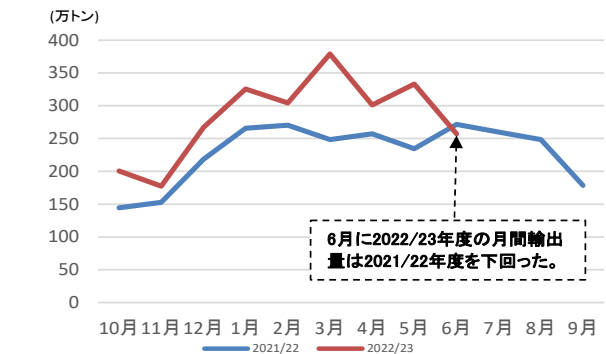
写真：施肥作業中の小麦圃場(NSW 州 2023. 7. 30)



NSW 州中央部の圃場。同地域は、冬期にまとまった降雨があったが、同州北部では降雨が必要である。肥料散布では、圃場のスキヤニングとデータの視覚化による可変施肥法(不足部分に施肥)で行っている。この結果、肥料の利用効率も向上している。

写真: Profarmer Australia

図：豪州産小麦の月別輸出量(2021/22 年度, 2022/23 年度)



資料：豪州統計局及び Profarmer Australia のデータをもとに農林水産省で作成

< EU27 > 東欧5か国：ウクライナ産小麦の輸入規制を継続

【生育・生産状況】欧州委員会(2023.7.27)によれば、2023/24年度のEU27の生産量は、前月予測から2.5百万トン下方修正され、前年度に比べ0.6%増加の134.7百万トンの見込み。

そのうち、普通小麦は前月予測から2.5百万トン下方修正され127.4百万トンと、前年度に比べ0.5%増加する見込み。また、デュラム小麦は前月予測からわずかに下方修正され7.3百万トンであるものの、同1.8%増加する見込み。国別では、普通小麦は、スロバキア等で上方修正されたものの、降雨不足によりドイツ、デンマーク、ポーランドで下方修正された。また、デュラム小麦は、スロバキアで上方修正されたものの、降雨不足によりフランス等で下方修正された。

主要生産国では、8月にヨーロッパ中央部、北部、東部で降雨があり、冬小麦の収穫が遅延した。

フランスアグリメール(2023.8.7)によれば、8月5日現在、フランスでは、デュラム小麦は収穫が終了、普通小麦の収穫進捗率は89%と過去5年平均の94%を下回った。また、2023/24年度の作柄状況を示す「とても良い～良い」の状態は、普通小麦が77%、デュラム小麦が67%とそれぞれ前年度同期の63%、55%を上回り、前年度に比べ作柄状況は良好となっている。フランス農業・食料・主権省によれば、現時点のたんばく質含有量は、普通小麦で11.5%と過去3年平均(11.2%)を上回っており、デュラム小麦で14%以上となっている割合はサンプルベースで76%と、5年平均(72%)を上回っている。

なお、USDAによれば、スペインは高温乾燥に見舞われており、2023/24年度の実産量は3.5百万トンと、過去5年平均(7.2百万トン)を51.4%下回っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく38.5百万トンと、前年度に比べ11.6%増加する見込み。なお、現地情報会社によれば、EU産小麦は輸出が増加しているロシア産小麦との競合が懸念されており、フランス産はEU域外への輸出は減少するものの、天候不順に見舞われているスペイン等への輸出は増加する見込み。

ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題に関し、欧州委員会は、2023年4月28日、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアでのウクライナ産の小麦、とうもろこし、菜種、ひまわり種子のトランジットを除く輸入禁止を決定。その後、ポーランド等5か国は9月15日までに段階的に規制を廃止することを決定したものの、7月にEU委員会に5か国の共同書簡を提示し、規制の期限について協議している模様。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	138.2	134.1	135.0 (134.6)	▲ 3.0	0.6	
消費量	108.3	108.0	107.5 (107.8)	▲ 2.0	▲ 0.5	
うち飼料用	45.0	44.0	43.0 (43.5)	▲ 2.0	▲ 2.3	
輸 出 量	32.0	34.5	38.5 (35.7)	-	11.6	
輸 入 量	4.6	12.2	7.0 (5.9)	-	▲ 42.6	
期末在庫量	13.3	17.2	13.2 (15.9)	▲ 1.5	▲ 23.3	
期末在庫率	9.5%	12.0%	9.0% (11.0%)	▲ 0.9	▲ 3.0	

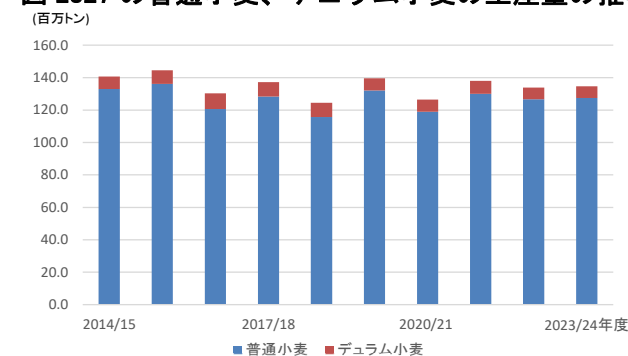
(参考)

収穫面積(百万ha)	24.28	24.32	24.30 (24.02)	▲ 0.05	▲ 0.1
単収(t/ha)	5.69	5.52	5.56 (5.60)	▲ 0.11	0.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)

IGC 「Grain Market Report」(20 July 2023)

図 EU27 の普通小麦、デュラム小麦の生産量の推移



資料：EU委員会「Cereals Production Area and Yield」(2023.7.27)

写真 収穫を待つ小麦圃場（フランス 8月10日）



8月10日・11日に収穫を行った。
収穫作業は、小麦が乾燥した状態が望ましいものの、7月中旬から連日の少量の降雨があり、十分に乾燥させることは困難だった。収量は十分でなく、穂発芽しているものもあり、品質は悪い可能性がある。

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の生産量は、豪雨の影響で 3.0 百万トンの下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、収穫面積は増加したものの、収穫期にかけての豪雨により単収が低下し、前月予測から 3.0 百万トン下方修正され、137.0 百万トンの見込み。前年度に比べ、収穫面積は増加したものの単収の低下から、生産量は 0.5%減少。なお、農薬等の生産コストが増加しているものの、高価格水準による高収益性から、収穫面積は前年度に比べ増加している。

中国国家统计局によれば、播種面積は前年度に比べ 0.4%増加して 3.06 百万ヘクタール、単収は同 1.3%減の 5.83 トン/ヘクタールの見込みで、生産量は前年度に比べ 0.9%減少し 146.2 百万トンとなるものの、依然として高水準であり豊作となっている。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 6 月号」(2023.7.18)によれば、中国全土で冬小麦の収穫はほぼ終了した。なお、5 月下旬に河南省、陝西省中南部等で降雨により小麦の一部で穂発芽やカビが発生し小麦の品質が低下した。この降雨による被災面積は 1.86 万ヘクタールで、中国の小麦生産地の 8 %を占め、その 95%が河南省に集中した。国家统计局によれば、この影響により、河南省で 2.6 百万トン、陝西省で 0.1 百万トンの小麦を含む夏穀物の生産量がそれぞれ減少する見込み。

一方、国家気象センター「中国気象農業報道」によれば、春小麦は、8 月 7 日現在、黒竜江省で開花期から成熟期に入っており、甘粛省や新疆地区では乳熟期に入っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく 12.0 百万トンと、期首在庫の減少により前年度に比べ 9.6%減少するものの、世界に占める中国の輸入量割合は 5.8%と、2 年連続の世界第 1 位となる見込み。

2022/23 年度の輸入量は、前月予測から 0.2 百万トン下方修正されたものの、13.3 百万トンと、1992/93 年度以降で最高となる見込み。中国税関統計によれば、2023 年 6 月の小麦の輸入量は 82.3 万トンと前月に比べ 28.6%減少した。2023 年 1 月から同年 6 月までの輸入量は 801.1 万トンと、前年同時期を 62.1%上回っている。この間の輸入先国のシェアは、豪州が 63.2%、カナダが 16.6%、フランスが 10.2%であり、この 3 か国で 90.0%を占めている。

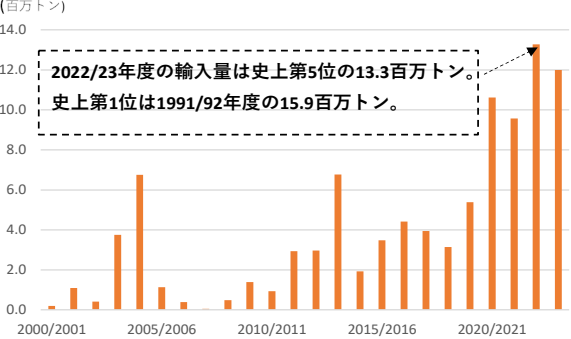
現地情報によれば、輸入国の多角化の一環で、輸入業者である中国の中糧集団（COFCO）とカザフスタンは中国への年間穀物輸出量を最大 100 万トンまで増やす計画を立てている。COFCO はカザフスタン農業省と協力し、中央アジアにおける農産物のサプライチェーンの構築を検討している。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	137.0	137.7	137.0 (136.5)	▲ 3.0	▲ 0.5
消 費 量	148.0	148.0	152.0 (149.5)	▲ 1.0	2.7
うち飼料用	35.0	33.0	36.0 (32.0)	-	9.1
輸 出 量	0.9	1.0	0.9 (1.1)	-	▲ 5.3
輸 入 量	9.6	13.3	12.0 (12.2)	-	▲ 9.6
期末在庫量	136.8	138.8	134.9 (139.1)	▲ 2.2	▲ 2.8
期末在庫率 (参考)	91.9%	93.2%	88.2% (92.4%)	▲ 0.9	▲ 5.0
収穫面積(百万ha)	23.57	23.52	23.70 (23.7)	0.10	0.8
単収(t/ha)	5.81	5.86	5.78 (5.76)	▲ 0.15	▲ 1.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 July 2023)

図 中国の輸入量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2023. 8. 11)をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

2023年6月			2023年1月～2023年6月			2022年1月～2022年6月		
国 名	輸入量	シェア	国 名	輸入量	シェア	国 名	輸入量	シェア
豪州	55.5	67.4	豪州	506.0	63.2	豪州	298.6	60.4
カナダ	7.9	9.6	カナダ	133.2	16.6	フランス	144.9	29.3
米国	7.3	8.8	フランス	82.0	10.2	カナダ	46.0	9.3
カザフスタン	5.4	6.6	米国	54.8	6.8	カザフスタン	1.8	0.4
フランス	4.5	5.4	カザフスタン	15.9	2.0	ロシア	1.3	0.3
ロシア	1.2	1.4	ロシア	5.7	0.7	日本	1.1	0.2
その他	0.6	0.7	その他	3.4	0.4	その他	0.5	0.1
計	82.3	100.0	計	801.1	100.0	計	494.1	100.0

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ ロシア ＞ 2023/24 年度の輸出量は史上最高の 48.0 百万トン

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の生産量(クリミア地域分を含まず)は、前月予測からの変更はなく、85.0 百万トンの見込み。播種期の降雨過多による収穫面積の減少と単収の低下から、生産量は史上最高であった前年度(92.0 百万トン)に比べ 7.6%減少するものの、過去 5 年平均(79.6 百万トン)を 6.8%上回る見込み。種類別の生産量は、冬小麦は前月予測から 1.0 百万トン下方修正の 60.5 百万トンと前年度に比べ 11.0%減少し、春小麦は前月予測から 1.0 百万トン上方修正され 24.5 百万トンと同 2.1%減少する見込み。なお、2023/24 年度は、冬小麦の収穫面積の減少が注目されるが、現地情報によれば、要因は低水準な小麦販売価格等による生産者の資金不足があるとみられている。

ロシア気象センターによれば、生育状況は、①ヨーロッパ部の中央連邦管区、南連邦管区等では、冬小麦や春小麦の一部が完熟期に達し、収穫が進展した。②アジア部のウラル連邦管区やシベリア連邦管区では冬小麦や春小麦の一部が黄熟期に入った。

ロシア農業省によれば、8 月 11 日時点までの小麦全体の収穫進捗率は 47.5%で、収穫済面積は降雨の影響を受け前年度同期を 0.2%下回る 14.15 百万ヘクタール。収穫済数量(品質調整前重量)は、前年度同期比 8.5%減少の 57.4 百万トン。なお、現地情報によれば、降雨により中央連邦管区等で冬小麦のタンパク質含有量が低い可能性もある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、中東、北アフリカからの需要と輸出余力が十分なことから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 48.0 百万トンと史上最高であった前年度を更に 4.3%上回る見込み。生産量は減少したものの、2023/24 年度のロシアの小麦供給量は、期首在庫と生産量とで 100 百万トンを超える見込み。現地情報会社によれば、黒海穀物イニシアチブ停止とそれに続くウクライナ河川港への攻撃後、ロシア産穀物の引き合いが強くなり、価格が上昇したことから、少なくとも一時的には穀物イニシアチブの履行停止はロシア産の利益率を高める結果になったとみられる。しかしながら、東欧諸国の大量の在庫等により、今後は欧州産の価格が低下し、ロシア産価格も低下する可能性があるとみられている。

現地情報会社によれば、2022/23 年度の輸出量は 4,806.8 万トンで過去 3 年平均(3,322.6 万トン)を 44.7%上回る。同年度の輸出先国は、エジプト(17.4 %)、トルコ(14.2%)、バングラデシュ(4.1%)の順。パトロシェフ農相によれば、ロシア産穀物の 96%は対ロ経済制裁を科していない国向けである。

小麦一口ロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	75.2	92.0	85.0 (83.6)	-	▲ 7.6
消 費 量	41.8	42.3	42.0 (44.5)	-	▲ 0.6
うち飼料用	18.5	19.0	19.0 (19.5)	-	-
輸 出 量	33.0	46.0	48.0 (45.2)	0.5	4.3
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.2)	-	-
期末在庫量	12.1	16.1	11.4 (10.2)	▲ 1.0	▲ 29.1
期末在庫率	16.2%	18.3%	12.7% (11.3%)	▲ 1.2	▲ 5.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.63	29.00	28.30 (27.8)	0.80	▲ 2.4
単収(t/ha)	2.72	3.17	3.00 (3.01)	▲ 0.09	▲ 5.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 July 2023)

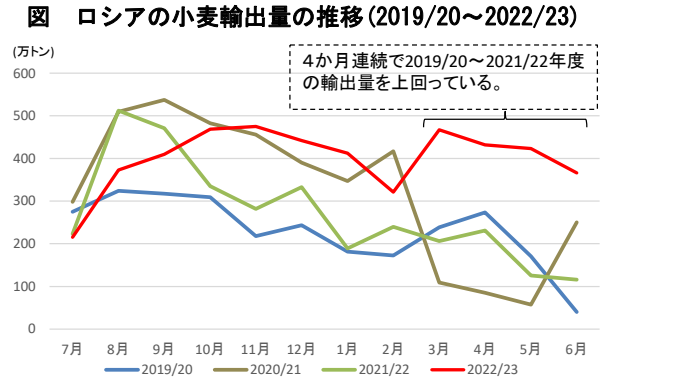


表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

(輸入量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2023年7月)		2022/23年度 (2022年7月～2023年6月)		2021/22年度 (2021年7月～2022年6月)	
国 名	輸出量	国 名	輸出量	国 名	輸出量
トルコ	43.0	エジプト	836.8	トルコ	712.0
サウジアラビア	41.1	トルコ	682.1	イラン	586.7
エジプト	31.4	バングラデシュ	199.2	エジプト	504.0
イスラエル	14.7	パキスタン	155.2	カザフスタン	217.3
バングラデシュ	11.0	イラン	149.6	サウジアラビア	97.3
イエメン	10.4	アゼルバイジャン	136.9	アゼルバイジャン	95.9
タンザニア	9.4	カザフスタン	125.5	スーダン	71.2
その他	77.2	その他	2,521.5	その他	979.4
計	238.2	計	4,806.8	計	3,263.8

※7月は7月1日から21日
資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2023/24 年度の生産量は上方修正され 21.0 百万トン

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の実産量(クリミア地域分を含む)は、良好な天候による単収の上昇と収穫面積の増加から、前月予測から3.5百万トン上方修正され、21.0百万トンとなるものの、前年度(21.5百万トン)を2.3%、5年平均(26.8百万トン)を21.7%それぞれ下回る見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、8月10日現在、3.83百万ヘクタール(前年同期3.85百万ヘクタール)で冬小麦の収穫が行われ、収穫進捗率は82.4%(同81.7%)。また、単収は4.62トン/ヘクタール(同4.01トン/ヘクタール)で、収穫済数量は、17.7百万トン(同15.4百万トン)である。

【貿易状況・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、生産量が上方修正されたものの黒海イニシアチブの履行が停止されたことから、前月予測からの変更はなく、10.5百万トンの見込み。前年度に比べ、期首在庫量が平年並みに減少するため、輸出余力が減少し、輸出量は37.5%減少する見込み。

ウクライナ政府等によれば、2023年7月の輸出量は82.4万トンと前年度同期に比べ119.1%増加したものの、戦争前の過去3年平均(2018/19年度～2020/21年度)に比べると26.9%の減少となった。7月の輸出先国は、ルーマニア(26.8%)、スペイン(20.6%)、トルコ(11.4%)の順。

現地報道によれば、黒海イニシアチブの履行停止により、鉄道、他国の港を活用するウクライナ産穀物の代替輸出ルートが検討されている。鉄道では、7月現在、ウクライナから近隣諸国を経由してEUの鉄道に接続するルートの選定、軌道幅工事の検討が行われている。海上輸送では、ドナウ川諸港を始め、バルト海諸港の利用拡大の動きがある。そのうち、ドナウ川ルート(ウクライナのレニ港等からドナウ川、スリナ運河を経由しルーマニアのコンスタンツァ港から輸出するルート等)の利用が最も期待されているものの、ロシアによる攻撃で穀物及び穀物施設が被害を受けるとともに、輸送料金が上昇している。また、バルト海諸港経由は物流コストが高いことが課題である。なお、2023年8月10日にウクライナ海軍は、ウクライナ側黒海諸港を利用する民間船舶のために臨時回廊を発表したものの、ウクライナ海運局は、ルーマニア、ブルガリア、トルコの領海に近いところを航行するように注意喚起をしている。

また、ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題に関し、欧州委員会は、2023年4月28日、ポーランド等5か国でのウクライナ産の小麦、とうもろこし、菜種、ひまわり種子のトランジットを除く輸入禁止を決定。その後、ポーランド等5か国は9月15日までに段階的に規制を廃止することを決定したものの、7月にEU委員会に5か国の共同書簡を提示し、規制の期限について協議している模様。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

(単位:百万トン)

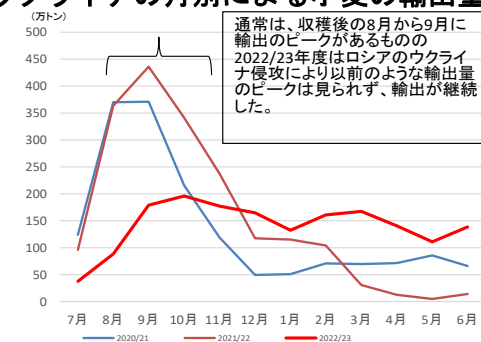
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24(23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	33.0	21.5	21.0 (23.2)	3.5	▲ 2.3	
消 費 量	10.5	8.4	8.1 (12.1)	1.0	▲ 3.6	
うち飼料用	4.5	3.4	3.5 (2.7)	1.0	2.9	
輸 出 量	18.8	16.8	10.5 (12.0)	-	▲ 37.5	
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	0.0	-	
期末在庫量	5.3	1.7	4.1 (2.0)	2.5	150.3	
期末在庫率	18.0%	6.5%	22.2% (8.1%)	13.2	15.7	

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.41	5.60	4.80 (6.1)	0.50	▲ 14.3
単収(t/ha)	4.45	3.84	4.38 (3.83)	0.31	14.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 July 2023)

図 ウクライナの月別による小麦の輸出量の推移



資料: 現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

図 ドナウ川沿いのウクライナ産穀物の積み出し港



資料: Google をもとに情報会社で作成。

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ウクライナで上方修正されたものの、米国、EU、中国等で下方修正され、前月から下方修正された。

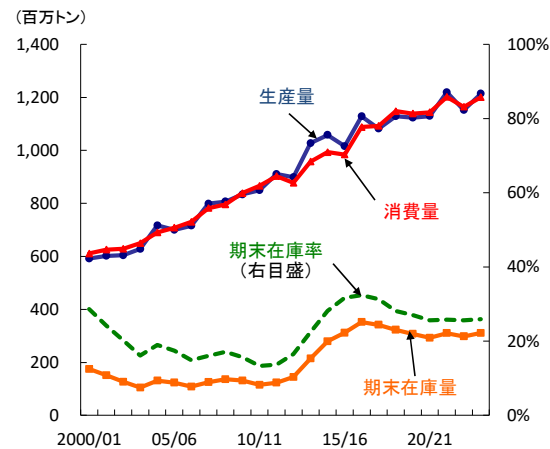
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジル等で上方修正されたものの、EU、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国、EU で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2023.8.11）をもとに農林水産省にて作成

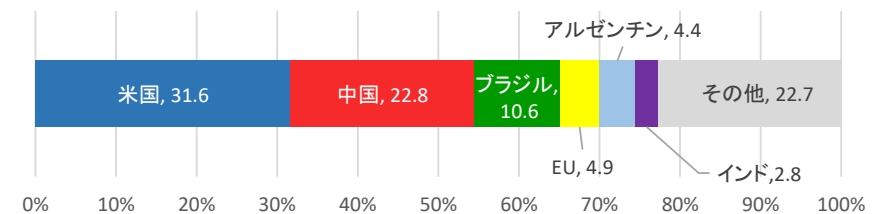
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

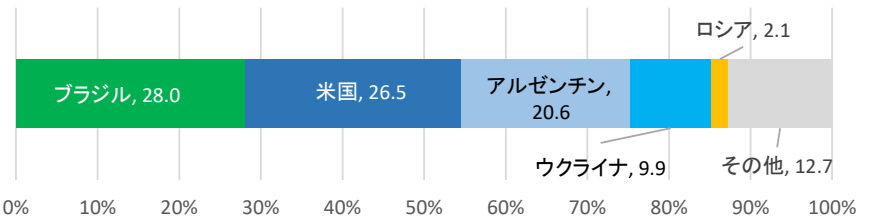
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,218.7	1,151.8	1,213.5	▲ 11.0	5.4
消費量	1,201.4	1,164.1	1,200.4	▲ 6.3	3.1
うち飼料用	745.5	730.1	756.7	▲ 5.4	3.6
輸出量	206.6	177.5	196.2	▲ 2.1	10.5
輸入量	184.4	173.8	187.1	▲ 1.3	7.6
期末在庫量	310.2	297.9	311.1	▲ 3.1	4.4
期末在庫率	25.8%	25.6%	25.9%	▲ 0.1	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 August 2023）

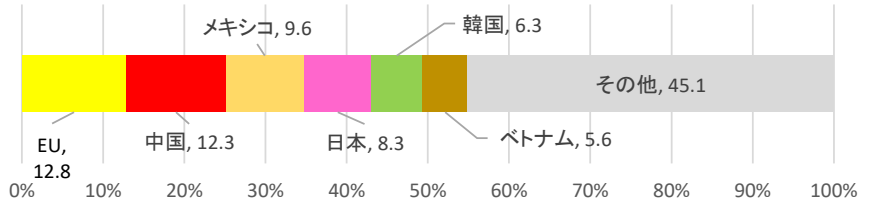
○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,213.5 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸出量(196.2 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度 世界のとうもろこしの輸入量(187.1 百万トン) (単位：%)



（２）国別のとうもろこしの需給動向

＜ 米国 ＞ 単収の引下げにより、生産量は5.3百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、今年度第1回目の作柄実績調査を受けて、単収が前月予測から0.15トン/ヘクタール引下げられたため、前月予測から5.3百万トン下方修正されたものの、収穫面積増等により前年度より10.1%増の383.8百万トンと、2016/17年度に次ぐ史上2番目の高水準となる見通し。

USDA「Crop Progress」（2023.8.14）によれば、8月13日現在で主要18州におけるドウ（ミルク上の穀粒が徐々に柔らかい固まりになっていく段階）進捗率は65%と、前年同時期（60%）、過去5年平均（63%）を上回っている。デント（穀粒に窪みができる段階）進捗率は18%と、前年同時期（15%）を上回り、過去5年平均（18%）と同水準。作柄評価が「良～やや良」の比率は59%と、7月から8月上旬にかけての降雨を受け前週（57%）から引上げられ、前年同時期（57%）を上回っている。9月以降、成熟期を迎えるとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、生産量の下方修正を受けた供給減により前月予測から1.1百万トン下方修正も、飼料用、エタノール用等の需要の増加により、前年度に比べ2.3%増の313.5百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、生産量の下方修正を受けて供給減により前月予測から1.3百万トン下方修正も、主要生産国の増産に伴う国際的なとうもろこし価格の低下を受けた輸出の回復期待から、前年度より26.1%増の52.1百万トンの見込み。2023/24年度に輸入が増加すると見込まれる中国への輸出をめぐり、ブラジル産等との輸出競争が激化する見通し。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.8.11）によれば、本年8月の米国産の輸出価格は、7月から8月上旬にかけての降雨を受け、前月から低下した。また、2023年輸出货量（1月1日～7月31日）は25.3百万トンと、前年同時期（2022年1月6日～8月6日）の39.3百万トンより36%減少。内訳はメキシコ（8.5百万トン）、日本（5.4百万トン）、中国（3.8百万トン）の順。

USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、2023/24年の生産量が下方修正されたため、前月予測から1.5百万トン下方修正されたものの、前年度より51.2%増の55.9百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より4.7ポイント上昇し、15.3%となる見込み。

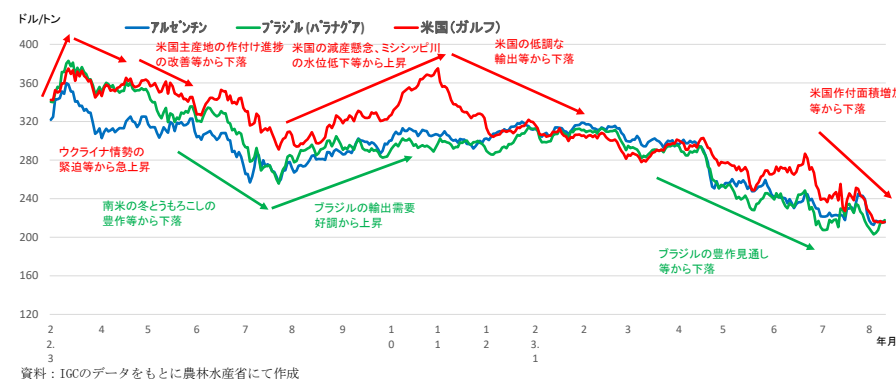
とうもろこし－米国

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年9月～24年8月)		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	382.9	348.8	383.8	▲ 5.3	10.1
消 費 量	317.1	306.3	313.5	▲ 1.1	2.3
うち飼料用	145.3	137.8	142.9	▲ 0.6	3.7
エタノール用等	135.3	132.7	134.6	-	1.4
輸 出 量	62.8	41.3	52.1	▲ 1.3	26.1
輸 入 量	0.6	0.9	0.6	-	▲ 28.1
期末在庫量	35.0	37.0	55.9	▲ 1.5	51.2
期末在庫率	9.2%	10.6%	15.3%	▲ 0.3	4.7
（参考）					
収穫面積(百万ha)	34.53	32.05	34.93	-	9.0
単収(t/ha)	11.09	10.88	10.99	▲ 0.15	1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 August 2023）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2022/23 年度の冬とうもろこしの収穫に遅れ

【生育・生産状況】USDAによれば、本年9月以降に作付けが開始される2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.4%減の129.0百万トンの見通し。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2023.8.10）によれば、収穫がほぼ終了した2022/23年度の夏とうもろこしの生産量は、前年度比9.4%増の27.4百万トンの見込み。大豆収穫後の2月以降に作付けされ、収穫期を迎えている冬とうもろこしの生産量は、前年度比16.4%増の102.6百万トンの見込み。夏作・冬作の合計では前年度比14.9%増の130.0百万トンで史上最高の見込み（P.23 大豆－ブラジルのクroppカレンダー参照）。

夏とうもろこしについて、CONABによれば、収穫進捗率は99%であり、収穫が完了していた前年度同時期より遅れているものの、家族農業主体のわずかな地域を除きほぼ完了。

冬とうもろこしについて、USDAによれば、主要生産州の中西部のマット・グロッソ州では、7月に急速に収穫作業が進められ、収穫進捗率は95%となっているものの、6月の降雨の影響もあり、前年同時期（100%）は下回っている。一方、南部のパラナ州では、7月の降雨により収穫作業に遅れが出たが、7月末に乾燥した天候が広がり、作物の乾燥が加速し収穫が進展するとみられる。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、飼料用、加工用ともに需要増加等から、前年度より3.3%増の77.5百万トンと史上最高の見込み。なお、飼料用需要が前月予測よりさらに増加する見通しから前月予測から1.0百万トン上方修正された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高となった前年度より1.8%減の55.0百万トンとなるものの、引き続き高水準の生産量と競争力のある安価な輸出価格から、2年連続で世界最大の輸出国となる見込み（右図参照）。

ブラジル貿易統計によれば、2023年1～7月の輸出量は15.9百万トンで、前年度比53%増。内訳は、日本（2.5百万トン）、中国（2.2百万トン）、韓国（1.4百万トン）の順。前年11月末以降開始された中国向けとうもろこし輸出は、大豆の輸出が一巡し、輸送や港湾の輸出キャパシティに余裕が出てきた7月以降、冬とうもろこしの輸出が本格化し始めている。7月の中国向け輸出量は0.9百万トンで、6月（0.2百万トン）の4.5倍。

とうもろこし－ブラジル

（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが約8割、夏とうもろこしは約2割）

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 （見込み）	2023/24（24年3月～25年2月）			
			予測値、（ ）はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	116.0	135.0	129.0 (130.2)	-	▲ 4.4	
消 費 量	70.5	75.0	77.5 (79.2)	1.0	3.3	
うち飼料用	59.5	62.5	63.5 (54.3)	1.0	1.6	
輸 出 量	48.3	56.0	55.0 (51.0)	-	▲ 1.8	
輸 入 量	2.6	1.0	1.2 (0.5)	-	20.0	
期末在庫量	4.0	9.0	6.7 (9.6)	-	▲ 25.6	
期末在庫率	3.3%	6.8%	5.0% (7.4%)	▲ 0.0	▲ 1.8	

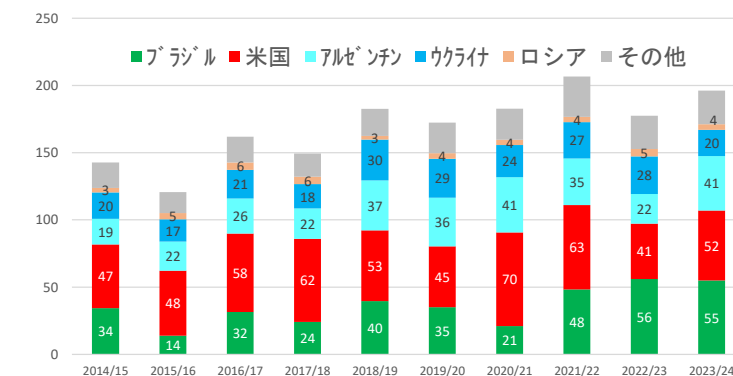
（参考）

収穫面積（百万ha）	21.80	22.50	22.90 (21.59)	-	1.8
単収（t/ha）	5.32	6.00	5.63 (6.03)	-	▲ 6.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 July 2023)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

ブラジルが2年連続で世界第1位の輸出国となる見通し
（2023/24年度の輸出シェアは28%）



資料：USDA「PS&D」（2023.8.11）のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 2023/24 年度の生産量は、前年度から回復する見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 9 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により生産量が激減した前年度から大きく回復する見通しから、58.8%増の 54.0 百万トンで史上最高となる見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2023.8.17）によれば、2022/23 年度の実収進捗率は 90%と、前年同時期（98%）を下回っている。生産量は、ブエノスアイレス州等主産地で長引く乾燥の影響で 34.0 百万トンとなり、2021/22 年度（52.0 百万トン）を 35%下回る見込み。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い需給が緩和し、飼料用需要が回復することから、前年度より 12.5%増の 13.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥により減産した前年度から生産量が大きく回復し、供給余力が出てくる見通しから、前年度より 84.1%増の 40.5 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 1～6 月の輸出量は 10.5 百万トンで、2022/23 年度産が減産となった影響もあり、前年度同期比（18.6 百万トン）で 44%減。輸出先の内訳は、ベトナム（141.6 万トン）、ペルー（128.2 万トン）、アルジェリア（119.3 万トン）の順。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、継続している。2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧水産大臣は、とうもろこしと小麦の輸出に関し、国内向け穀物供給不足の回避と食料品価格の上昇を抑制するため、輸出上限数量を設定することを表明。2023 年 8 月中旬現在、とうもろこしの輸出上限数量は 2021/22 年度 36 百万トン、2022/23 年度 20 百万トンにそれぞれ設定されている。

なお、アルゼンチン政府は、今般の干ばつ対策として、農業関係者に対し、融資や減税、割引手形を発行するなどの救済施策を公表した。4 月 10 日には、各種税の支払い猶予措置などの救済施策を公表した。7 月 25 日、アルゼンチン政府は、輸出促進プログラムを発表し、優遇為替レート（1 ドル＝340 ペソ）にとうもろこしを追加した（期限は 8 月 31 日まで）。

とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年3月～25年2月)		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.5	34.0	54.0 (61.0)	-	58.8
消 費 量	14.5	12.0	13.5 (20.4)	-	12.5
うち飼料用	10.5	8.0	9.3 (15.5)	-	16.3
輸 出 量	34.7	22.0	40.5 (40.9)	-	84.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.5	1.5	1.5 (4.8)	-	-
期末在庫率	3.0%	4.4%	2.8% (7.8%)	-	▲ 1.6
（参考）					
収穫面積(百万ha)	7.10	6.70	7.00 (8.50)	-	4.5
単収(t/ha)	6.97	5.07	7.71 (6.94)	-	52.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 July 2023)

写真：北部サンタフェ州の遅植えとうもろこしの圃場風景 （7 月 26 日撮影）

本圃場のとうもろこしは完熟期にある。子実水分が多い状態であるため、
収穫作業は 8 月末を予定。



< 中国 > 主産地の降雨過多の影響を受け、生産量は3.0百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDAによれば、2023/24年度の実産量は、7月の主産地の東北地区や華北平原における降雨過多により単収が引き下げられたため、前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より0.1%減の277.0百万トンの見込み。

8月上旬現在、黒竜江省等が主産地の春とうもろこし、河南省等が主産地の夏とうもろこしともに、開花期からシルキング期を迎えている。

【需要状況】USDAによれば、2023/24年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、国際的なとうもろこし価格の低下と国内の経済成長を背景とした飼料用需要の増加から、前年度より1.7%増の304.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の実輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内の飼料用需要の増加を背景として、国内価格が国際価格を上回っていることを受け、特に、前年末から開始されたブラジルからの輸入が増加すると予想されていることもあり、前年度より27.8%増の23.0百万トンの見込み。

農業農村部によれば、2023年1～6月の輸入量は、前年同期より11.5%減の1,203.3百万トン。内訳は、米国（469.4百万トン）、ウクライナ（433.5百万トン）、ブラジル（221.5百万トン）の順。2023年4月以降、米国産の輸入量が前年同月より大きく減少しており、背景として、米国産が他国産に比べて割高であることから輸入を取り止め、安価なブラジル産とうもろこしや豪州産小麦を飼料向けに代替する動きがあるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2023年6月号」によると、6月の国内価格は、豚価低迷と国内経済不調により飼料用需要と加工用需要が伸びず弱含みで推移しているものの、一部産地での高温と少雨が生育に対する市場の懸念を引き起こし、2,720元/トンと前月（2,720元/トン）から下げ止まった。また、6月の輸入価格は、2,520元/トンと前月（2,500元/トン）から上昇した。2022年12月以降、国内価格が国際価格を上回る状況が続いている。

USDAによれば、2023/24年度の期末在庫量は、供給量の引下げにより前月予測から3.0百万トン下方修正され、前年度より2.0%減の201.3百万トンの見込み。2023/24年度の期末在庫率は、前年度から2.5ポイント減の66.2%となる見込み。

とうもろこし—中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年10月～24年9月）			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	272.6	277.2	277.0 (279.4)	▲ 3.0	▲ 0.1	
消 費 量	291.0	299.0	304.0 (305.5)	—	1.7	
うち飼料用	209.0	218.0	223.0 (205.0)	—	2.3	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	—	—	
輸 入 量	21.9	18.0	23.0 (20.0)	—	27.8	
期末在庫量	209.1	205.3	201.3 (169.9)	▲ 3.0	▲ 2.0	
期末在庫率	71.9%	68.7%	66.2% (55.6%)	▲ 1.0	▲ 2.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.32	43.07	43.00 (43.32)	—	▲ 0.2	
単収(t/ha)	6.29	6.44	6.44 (6.45)	▲ 0.07	—	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」(20 July 2023)

表：中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

2023年6月			2023年1月～2023年6月			2022年1月～2022年6月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
米国	122.7	66.5	米国	469.4	39.0	米国	843.5	62.0
ウクライナ	56.7	30.7	ウクライナ	433.5	36.0	ウクライナ	491.0	36.1
ブルガリア	4.8	2.6	ブラジル	221.5	18.4	ブルガリア	13.5	1.0
ロシア	0.3	0.2	ブルガリア	29.3	2.4	ミャンマー	5.4	0.4
ミャンマー	0.2	0.1	ロシア	20.2	1.7	ロシア	3.2	0.2
オランダ	0.0	0.0	ミャンマー	17.3	1.4	ラオス	2.3	0.2
その他	0	0.0	その他	12.1	0.9	その他	0.6	0.0
計	184.7	100	計	1203.3	100	計	1359.5	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ ウクライナ ＞ 2023/24 年度の生産量は、侵攻前の 2021/22 年度より 34.7%減

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実生産量は、降雨に恵まれたことから単収が上方修正されたことを受け、前月予測から 2.5 百万トン上方修正され、前年度より 1.9%増の 27.5 百万トンとなったものの、侵攻前の 2021/22 年度より 34.7%減となる見通し。

ウクライナ農業政策食料省によれば、8 月 10 日現在、2023/24 年度の実生産量は、前年度より 1.4%増の 28.1 百万トン。収穫予定面積は、前年度より 3.8%減の 4.06 百万ヘクタール。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 5.8%増の 5.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、供給量の減少及び主要輸出先である EU での増産による輸入需要の減少の影響を受け、前年度より 30.4%減の 19.5 百万トンの見込み。

ウクライナ政府等によれば、2022 年 10 月から 2023 年 7 月までの間の輸出量は 2,568 万トン（海上輸送、陸路等での全ての輸出が含まれる）。輸出先国は、中国（561 万トン）、ルーマニア（385 万トン）、スペイン（283 万トン）、イタリア（201 万トン）、エジプト（194 万トン）の順。

黒海穀物イニシアチブ「国連共同調整センター」によれば、輸出が再開された 2022 年 8 月 1 日から、停止された 2023 年 7 月 17 日までの間の黒海港湾からのとうもろこし輸出量は 1,687 万トン。主な輸出先は、中国（546 万トン）、スペイン（328 万トン）、イタリア（145 万トン）の順。

現地報道によれば、黒海イニシアチブの履行停止により、鉄道、他国の港を活用するウクライナ産穀物の代替輸出ルートが検討されている。詳細は、P.8 小麦－ウクライナ参照。

ウクライナ産農産物の東欧諸国への過剰流入問題に関し、欧州委員会は、2023 年 4 月 28 日、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ルーマニアでのウクライナ産の小麦、とうもろこし、菜種、ひまわり種子のトランジットを除く輸入禁止を決定。その後、ポーランド等 5 か国は 9 月 15 日までに段階的に規制を廃止することを決定したものの、7 月に EU 委員会に 5 か国の共同書簡を提示し、規制の時期について協議されている模様。

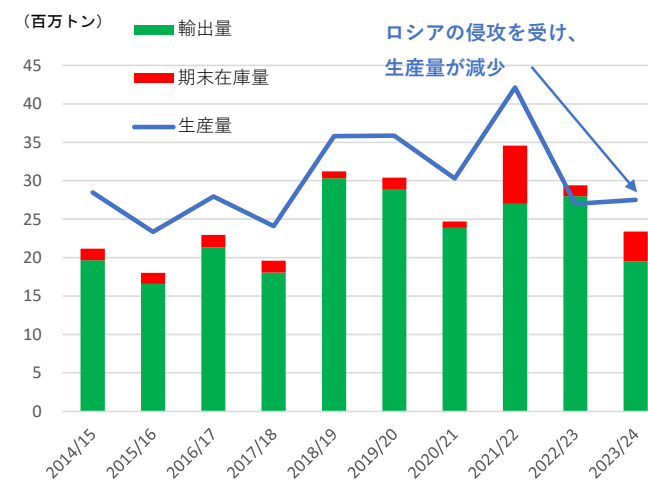
とうもろこし－ウクライナ

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	42.1	27.0	27.5 (24.0)	2.5	1.9	
消 費 量	8.4	5.2	5.5 (6.3)	-	5.8	
うち飼料用	7.2	4.0	4.5 (4.5)	-	12.5	
輸 出 量	27.0	28.0	19.5 (18.0)	-	▲ 30.4	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	7.6	1.4	3.9 (1.0)	2.5	179.9	
期末在庫率	21.5%	4.2%	15.6% (4.3%)	10.0	11.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.49	4.05	4.00 (5.46)	0.10	▲ 1.2	
単収(t/ha)	7.68	6.67	6.88 (4.40)	0.47	3.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 July 2023)

図：とうもろこしの生産量、輸出量、期末在庫量の推移

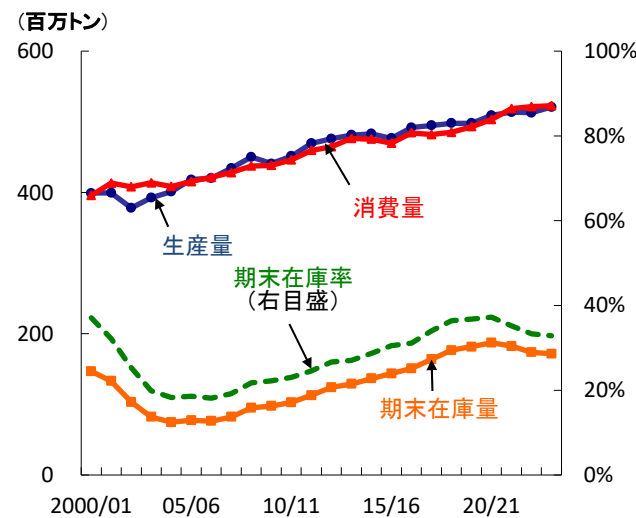


資料：USDA「PS&D」(2023. 8. 11) をもとに農林水産省にて作成。

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>			2023/24 年度	
生産量	前年度比	↑	前月比	↑
・ 米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。				
消費量	前年度比	↑	前月比	↓
・ インド等で上方修正されたものの、ベトナム等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。				
輸出量	前年度比	↓	前月比	↓
・ パキスタン、ベトナム等で上方修正も、インド等で下方修正され、前月から下方修正された。				
期末在庫量	前年度比	↓	前月比	↑



資料：USDA「PS&D」（2023. 8. 11）をもとに農林水産省にて作成

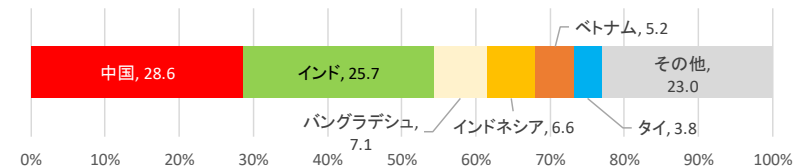
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

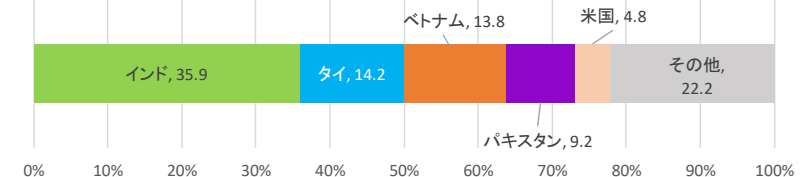
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	513.9	512.8	520.9	0.2	1.6
消 費 量	518.8	521.5	523.0	▲ 1.0	0.3
輸 出 量	56.9	54.6	53.0	▲ 3.4	▲ 2.9
輸 入 量	54.4	53.6	50.6	▲ 3.5	▲ 5.5
期末在庫量	182.5	173.8	171.8	1.4	▲ 1.2
期末在庫率	35.2%	33.3%	32.8%	0.3	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 August, 2023）

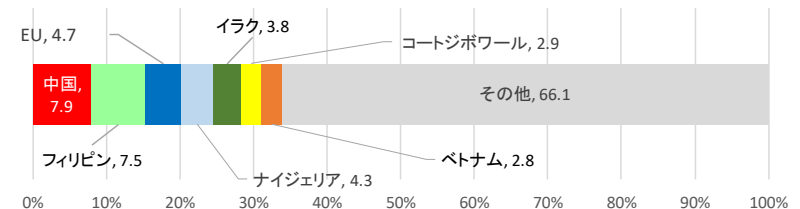
○ 2023/24年度 世界のコメの生産量(520.9百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸出量(53.0百万トン) (単位：%)



○ 2023/24年度 世界のコメの輸入量(50.6百万トン) (単位：%)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 2023/24 年度の生産量は単収の増加見込みから前年度比 27.1%増

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、前年度比 27.1%増の 6.5 百万トンと、2020/21 年度以来の高水準の生産量となる見込み。7 月末から 8 月上旬にかけて行われた USDA の第 1 回目の作柄実績調査によれば、豊富な灌漑用水が確保されていると思料されること等から、単収が前年度比 4.2% (0.11 トン/ヘクタール) 増加する見込み。

同「Crop Progress」(2023.8.14) によれば、8 月 13 日時点で主要生産 6 州の出穂率は 87%と、前年同期 (82%)、過去 5 年平均 (83%) を上回っている。収穫進捗率は 14%と前年同期及び過去 5 年平均 (いずれも 10%) を上回っている。7 月から続く記録的な高温により、主としてアーカンソー州など長粒種の産地の作柄に影響があったため、主要生産 6 州の作柄評価は「良～やや良」が 67%と、前年同期 (75%) を下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度比 3.4%増の 4.9 百万トンと、史上最高の見込み。増産による国内供給量の増加で国内取引価格が下落していることも背景にある。

2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内での生産量増加に伴う中・短粒種の輸入減少から、前年度比 0.8%減の 1.2 百万トンの見込み。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と、それに伴う米国産米の新穀収穫後の価格低下の見通しから、前年度比 25.1%増の 2.5 百万トンの見込み。

USDA 「Rice Outlook」(2023.8.15) によれば、8 月 8 日までの週のイラク向け長粒種 (2 等、碎米 4 % 混入) の価格は 760 ドル/トンと、本年 1 月末より、2008 年 10 月初旬 (772 ドル/トン) 以来の高値となっている (P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。地中海向けカリフォルニア米 (1 等、碎米 4 % 混入) である中粒種の価格は 1,650 ドル/トンと、前年 12 月末より史上最高の価格水準が続いている。

なお、米国産米の国内農家出荷価格について、中・短粒種は前月から変更がないものの、長粒種の価格は、15.5 ドル/cwt (341.7 ドル/トン) と、前月から 1 ドル/cwt (22.0 ドル/トン) 上昇した。背景にはインドの輸出規制強化 (2023 年 7 月 20 日～) がある。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは 1/4
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約 2 割

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年 8 月～24年 7 月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	5.1	6.5	0.1	27.1
消 費 量	4.8	4.8	4.9	-	3.4
輸 出 量	2.7	2.0	2.5	-	25.1
輸 入 量	1.2	1.2	1.2	-	▲ 0.8
期末在庫量	1.3	0.8	1.0	0.1	26.9
期末在庫率	17.0%	11.5%	13.3%	0.7	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.01	0.88	1.07	-	21.6
単収(もみt/ha)	8.64	8.28	8.63	0.11	4.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 August, 2023)

写真:アーカンソー州の生育状況の風景 (8月2日撮影)。



撮影者: ケネス・グラベス氏 (アーカンソー州コメ生産者協会会長)

< インド > 降雨不足と高温から作柄に懸念

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高であった前年度の収穫面積が減少する（前年度比 1.5%減）との予想から、前年度比 1.5%減の 134.0 百万トンの見込み。単収は、史上最高だった前年度と同水準の見込み。

7 月前半までは降雨不足により作付けが遅れていたが、7 月後半に降雨があり土壌水分が十分に改善したことから、7 月末には平年を上回る作付けペースとなった。8 月に入り、平年のような豪雨は北東部及びガンジス川沿いに限られ、他の地域は平年より少ない降雨、又は降雨が全くない状況。これを受けた土壌水分不足に加え、高温が作物に悪影響を与えている。インド気象局によると、8 月は 1901 年の統計開始以来、最も乾燥した天候となる見通し。

インド農業農民福祉省によると、カリフ米の作付済み面積は、8 月 11 日時点で 32.8 百万ヘクタールと、降雨不足で作付けが遅れた前年同期（31.2 百万ヘクタール）に比べ 1.6 百万ヘクタール多い状況。作付け進捗率は 82.2%（前年度は 78.3%）。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、国内価格の高騰抑制を目的とする輸出規制強化を受けた消費量の増加から、前月予測から 1.0 百万トン上方修正され、前年度比 1.8%増の 115.0 百万トンと史上最高の見込み。なお、前年度に引き続き、政府の低所得世帯向け食料配給（約 8 億人が対象）向けにコメが供給される見込み（2022/23 年度は 58 百万トンと消費量の半分に相当）。

2022 年 9 月 9 日に、カリフ米の生産減少による国内価格高騰を抑制する観点から、碎米の輸出禁止、及び、主に中近東向け等に輸出されるバスマティ米（香り米）やパーボイルド米（蒸米）以外のコメへ輸出税を賦課（20%）する輸出規制を発動した。更に、引き続き国内価格が上昇していることから、更なる国内価格抑制と国内の供給量確保のため、本年 7 月 20 日にバスマティ米・パーボイルド米以外の精米の輸出を禁止した。こうした動きを受け 2023/24 年度の輸出量は、規制強化による輸出量の減少から、前月予測から 4.0 百万トン下方修正され、前年度比 9.5%減の 19.0 百万トンの見込み。ただ依然として世界第 1 位の輸出国に変わりなく、世界の輸出量の 36%を占める見込み。

USDA「Grain: World Markets and Trade」（2023.8.11）によれば、インド産米（碎米 5 %混入）の価格は、輸出規制強化後はデータがないものの、規制前までの輸出価格は 485 ドル/トンと、アジア主要輸出国の中で依然として最低水準の価格となっている（P.20 の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照）。

2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測から 4.0 百万トン上方修正され、前年度と同水準の 36.0 百万トンの見込み。

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ（小麦）の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年 9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	129.5	136.0	134.0 (136.8)	-	▲ 1.5	
消 費 量	110.5	113.0	115.0 (114.0)	1.0	1.8	
輸 出 量	22.0	21.0	19.0 (22.2)	▲ 4.0	▲ 9.5	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	34.0	36.0	36.0 (31.4)	4.0	-	
期末在庫率	25.7%	26.9%	26.9% (23.1%)	3.5	-	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	46.28	47.70	47.00 (47.00)	-	▲ 1.5	
単収(もみt/ha)	4.20	4.28	4.28 (2.88)	-	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August, 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 July, 2023)（単収は精米t/ha）

図：インドのコメ輸出量と輸出先国

(2022 年 4 月～2023 年3月)

(単位：万トン)

品種別	2022/23	シェア
非バスマティ米	1778.6	79.6%
バスマティ米	455.9	20.4%
合計	2234.5	100.0%

※年度は2022年4月～2023年3月

非バスマティ米輸出先国	2022/23	シェア
1 ベナン	155.8	8.8%
2 中国	150.4	8.5%
3 セネガル	133.3	7.5%
4 コートジボワール	121.1	6.8%
5 トーゴ	94.0	5.3%
合計	1778.6	100.0%

バスマティ米輸出先国	2022/23	シェア
1 イラン	99.9	21.9%
2 サウジアラビア	95.4	20.9%
3 イラク	36.4	8.0%
4 アラブ首長国連邦	31.5	6.9%
5 イエメン	29.0	6.4%
合計	455.9	100.0%

資料：インド政府統計をもとに農林水産省にて作成。

< 中国 > 一期作稲、南部の二期作晩稲の生育は順調

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度の干ばつから回復して収穫面積が増加し、史上最高の単収が見込まれることから、前年度比2.1%増の149.0百万トンと、史上最高となる見込み。なお東北部では、政府の大豆作付け推進政策により、コメの作付面積が減少傾向にある。

中国中央气象台（2023.8.7）によれば、①一期作稲は7月末現在、生育状況は平年並みとなっており、平均単収は2022年と同水準と予想される。東北地域の一期作のほとんどが穂ばらみ期にあり、長江流域の大部分は分げつ期・節間伸長期に、その他一部地域では穂ばらみ期にそれぞれ入っている。また、西南地域では、ほとんどの地域が穂ばらみ期・出穂期にあり、一部地域は乳熟期に入っている。②二期作晩稲は7月末現在、成長段階は大部分の地域において平年並みか、若干早いペースで進んでいるものの、湖南省など一部の地域は約1週間遅れている。長江下流の大部分の地域の二期作晩稲は、移植期及び緑化期・分げつ期に入っており、また、長江下流の南部及び華南地域の大部分は、三葉期及び移植期・緑化期に入っている。

なお、二期作早稲米の収穫は終了した。国家統計局の「2023年早稲収量データ」（2023.8.23）によると、収穫面積は減少も、単収の増加から、総生産量は28.3百万畝トンと、前年から0.8%増加した。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2023.8.15）によれば、8月上旬から中旬にかけて平年並みの降雨があり、南部の水田の土壌水分量が改善され、生育期にある稲の生長に好条件となった。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、とうもろこしの前年度並みの生産見込みを受けた飼料用米の消費量の減少から、前年度比1.9%減の152.0百万トンの見込み。

2023/24年度の輸入量は、飼料用とうもろこしの需要増から、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度比8.7%減の4.0百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2023年6月の輸入量は16.8万トン（前年同期比74.5%減）、1～6月の輸入量は180.5万トン（前年同期比49.3%減）となった。

なお、中国はこれまで、とうもろこし等飼料用穀物の価格高騰を背景に、飼料用等として低価格の碎米をインド等から輸入してきたが、2022年9月以降、インドの輸出禁止等により輸入量は減少している。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

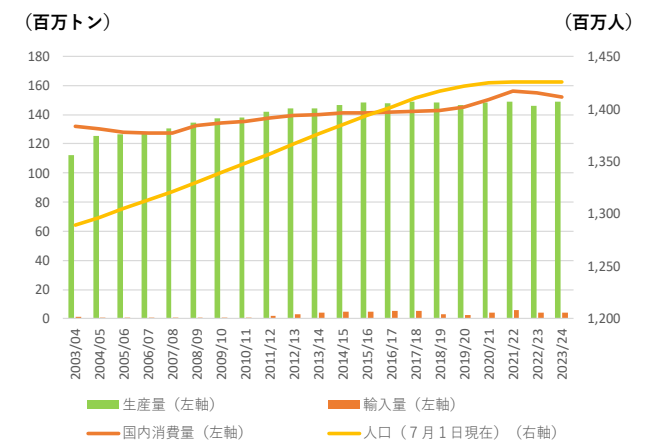
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年7月～24年6月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	149.0	146.0	149.0 (148.9)	-	2.1	
消 費 量	156.4	155.0	152.0 (150.8)	-	▲ 1.9	
輸 出 量	2.1	1.7	2.0 (2.0)	-	14.9	
輸 入 量	6.0	4.4	4.0 (4.5)	▲ 1.0	▲ 8.7	
期末在庫量	113.0	106.6	105.6 (105.8)	▲ 1.2	▲ 0.9	
期末在庫率	71.3%	68.0%	68.6% (69.3%)	▲ 0.8	0.6	

(参考)

収穫面積(百万ha)	29.92	29.45	29.85 (29.45)	-	1.4	
単収(もみt/ha)	7.11	7.08	7.13 (4.96)	-	0.7	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August, 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 July, 2023) (単収は精米t/ha)

図：中国のコメ生産量・消費量・輸入量と人口の推移（2017～2023年）



資料：USDA「PS&D」（2023.8.11）及び国連「World Population Prospects 2022」をもとに農林水産省にて作成。なお2022年、2023年の人口は予測値。

< タイ > 雨季米の土壌水分量は十分も、乾季米向け灌漑用水不足が懸念

【生育・生産動向】USDAによれば、2023/24年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、水不足や生産コスト上昇等により、雨季米の収穫面積が前年度比2.3%減少となり、前年度比2.5%減の19.7百万トンの見込み。

2022/23年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、良好な天候と十分な降雨により、2021/22年度比1.5%増の20.2百万トンの見込み。

7月から8月上旬にかけて、雨季米の主要産地であるタイ北東部においては平年並みの降雨があった。また、北部及び中部は平年より乾燥していたものの、8月中旬にはタイ北部でも平年並みの降雨があった。多くの水田は水が十分であるものの、降雨量に地域差があるため、今後の乾季米用の灌漑用水不足が懸念される。タイ北東部の2つの主要な貯水池は8月12日時点で前年の貯水量を下回っている。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.8）によると、雨季米は現在、幼穂形成期にある。作付け進捗率は7月末までは降雨不足により遅れていたものの、8月に入り予定面積の55%まで進展した。作付面積は干ばつの影響を受けて前年度から減少する見込み。5～7月の降雨量はタイ全土で前年度より少なく、8月も減少する見込みであり、病虫害被害の発生の可能性が高く、穂数の減少が見込まれることから、前年に比べ、単収及び生産量が減少する見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2023/24年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比11.8%減の7.5百万トンの見込み。

2022/23年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2021/22年度比10.4%増の8.5百万トン。

タイ米輸出業者協会によれば、2023年1～6月の輸出量は、前年同期比15.0%増の403.9万トンとなった。検疫問題で7年間停止していたタイ産米の輸入を2022年に再開したイラクは63.5万トン（前年同期66.0万トン）。また、政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大しているインドネシアは、前年同期の1.3万トンから大幅増の60.8万トンとなった。そのほか、南アフリカが40.9万トン（同34.1万トン）と増加している一方、米国は34.4万トン（同39.3万トン）と減少。

USDA「Rice Outlook」（2023.8.14）によれば、8月8日までの週のタイ産米（長粒、2等精米）の輸出価格は、インドの輸出規制強化（2023年7月20日～）により前月から126ドル/トン上昇し、657ドル/トンと、2008年10月初旬以来の高値となった（P.20の「長粒種のFOB価格の推移」を参照）。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)					
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年1月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	19.9	20.2	19.7 (21.1)	-	▲ 2.5
消 費 量	12.8	12.8	12.5 (12.9)	-	▲ 2.3
輸 出 量	7.7	8.5	7.5 (8.2)	-	▲ 11.8
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-
期末在庫量	3.4	2.4	2.1 (6.1)	-	▲ 10.5
期末在庫率	16.7%	11.2%	10.7% (28.8%)	-	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.70	10.85	10.60 (10.85)	-	▲ 2.3
単収(もみt/ha)	2.81	2.82	2.82 (1.86)	-	-
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(11 August, 2023) IGC「Grain Market Report」(20 July, 2023) (単収は精米t/ha)					

表：タイの国別輸出量

(単位：万トン)			
国名	2022 年 1～6月	2023 年 1～6月	増減量
1 イラク	66.0	63.5	▲ 2.5
2 インドネシア	1.3	60.8	59.5
3 南アフリカ	34.1	40.9	6.7
4 米国	39.3	34.4	▲ 5.0
5 中国	30.5	18.8	▲ 11.6
6 日本	15.0	18.0	2.9
7 セネガル	11.3	14.5	3.2
8 カメルーン	7.3	12.1	4.9
9 バングラデシュ	0.0	11.5	11.5
10 モザンビーク	8.6	9.1	0.5
計	351.4	403.9	52.6 (前年比15.0%増)

資料：タイ米輸出業者協会（2023.8）

< ベトナム > 北部、南部とも雨季米は良好な生育状況

【生育・生産動向】USDA によれば、2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積はわずかに減少も、単収は過去最高だった前年度の水準を維持する見込みから、前年度並みの 27.0 百万トンの見込み。肥料高騰や高収益作物等（果物・野菜・養殖）への転換等により、生産量は史上最高となった 2014/15 年度（28.2 百万トン）を境に、緩やかな低下傾向にある。

2022/23 年度の生産量は、前月予測から変更はなく、2021/22 年度比 1.1%増の 27.0 百万トンの見込み。

アセアン食料安全保障情報システム（2023.8）によると、①北部では夏秋作（雨季米）が幼穂形成期にあり、灌漑用水が十分なため、作柄は良好。②南部では、夏秋作（雨季米）が収穫期にあり、173 万ヘクタールの作付面積のうち 49 万ヘクタール（28.3%）が収穫され、温暖な天候と十分な灌漑用水により単収は前年度よりわずかに増加の見込み。③南部の雨季米（秋冬作）は良好な生育条件の下、成長期にある。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、2023 年にインドネシアへの備蓄向け輸出が終了すること等から、前年度比 7.6%減の 7.3 百万トンの見込み。ただし、2023 年 1～6 月までの出荷ペースが予想より早いことや、競争相手であるインドの輸出規制強化（2023 年 7 月 20 日～）により 2023/24 年度の輸出量が減少することで、ベトナムへの代替需要が発生することから、前月予測より 0.1 百万トン上方修正された。

2022/23 年度の輸出量も、競争相手であるインドの輸出規制強化により、前月予測から 0.4 百万トン上方修正され、7.9 百万トンの見込み。

ベトナム関税総局によれば、2023 年 1～7 月の輸出量は 489.5 万トンと、前年同期（407.6 万トン）に比べ 20.1%増加した。主な輸出先国は、フィリピン（193.8 万トン）、中国（71.9 万トン）、インドネシア（62.3 万トン）、ガーナ（32.3 万トン）の順。

USDA 「Grain: World Markets and Trade」（2023.8.11）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の 8 月 8 日までの週の価格は、インドの輸出規制強化により前月の価格から 125 ドル/トン上昇して 644 ドル/トンと、2008 年 7 月以来の高値となった。

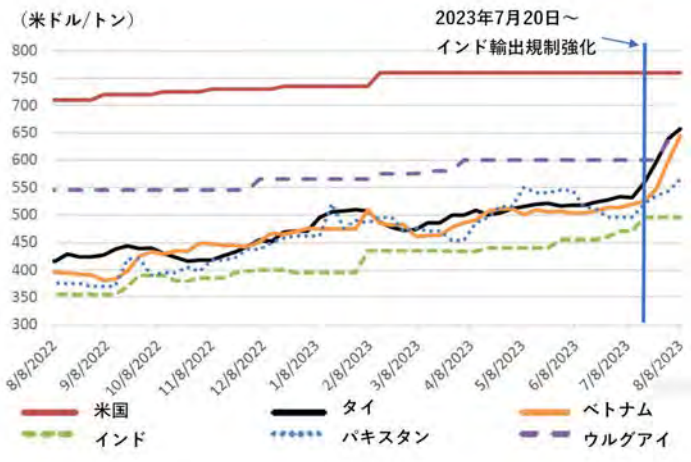
コメーベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (24年 1 月～24年12月)		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	26.7	27.0	27.0 (28.0)	-	-
消 費 量	21.5	21.5	21.5 (22.0)	▲ 0.2	-
輸 出 量	7.1	7.9	7.3 (7.3)	0.1	▲ 7.6
輸 入 量	1.7	1.5	1.4 (1.1)	▲ 0.3	▲ 6.7
期末在庫量	2.5	1.6	1.2 (3.0)	▲ 0.7	▲ 25.6
期末在庫率	8.6%	5.3%	4.0% (10.3%)	▲ 2.4	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.10	7.17	7.16 (7.10)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	6.01	6.03	6.03 (3.90)	-	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 August, 2023)
IGC 「Grain Market Report」 (20 July, 2023) （単収は精米t/ha）

図：長粒種の FOB 価格の推移



資料：USDA 「Grain : World Markets and Trade」（2023.8.11）より。

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2023/24 年度

生産量 前年度比 前月比

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

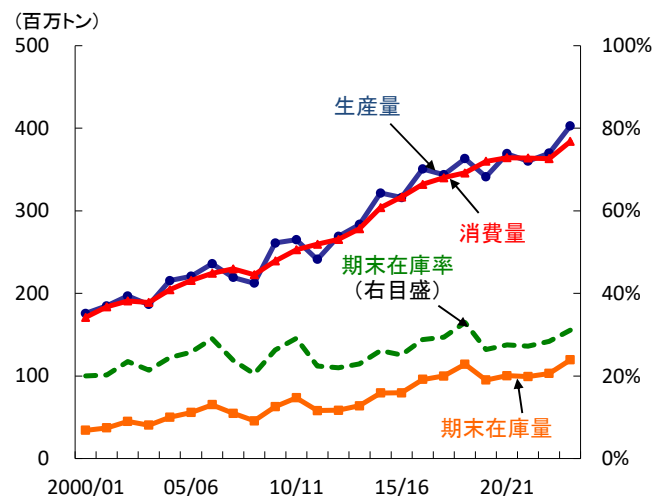
消費量 前年度比 前月比

・エジプト、バングラディッシュ、パキスタン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・パラグアイ等で上方修正されたものの、米国で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

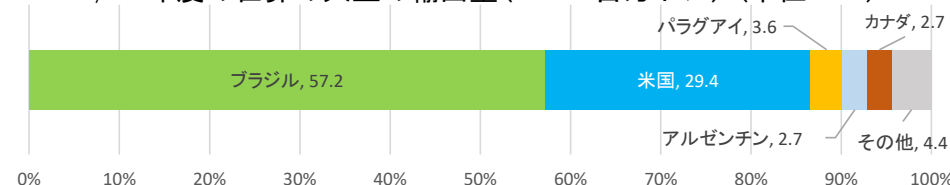
年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	360.2	369.7	402.8	▲ 2.5	8.9
消費量	364.0	363.3	383.9	▲ 0.6	5.7
うち搾油用	314.5	311.6	329.5	▲ 0.7	5.8
輸出量	153.9	169.0	168.8	▲ 0.5	▲ 0.1
輸入量	156.6	166.4	166.3	▲ 0.3	▲ 0.1
期末在庫量	99.1	103.1	119.4	▲ 1.6	15.8
期末在庫率	27.2%	28.4%	31.1%	▲ 0.4	2.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（11 August 2023）

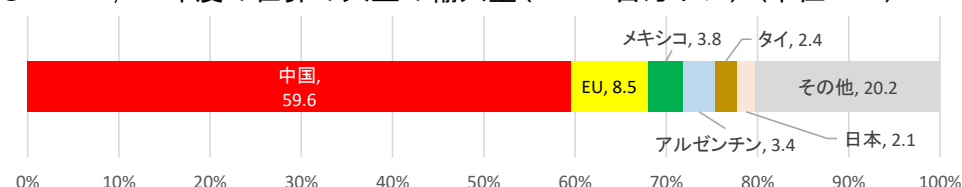
○ 2023/24 年度の世界の大豆の生産量(402.8 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸出量(168.8 百万トン) (単位：%)



○ 2023/24 年度の世界の大豆の輸入量(166.3 百万トン) (単位：%)



（２）国別の大豆の需給動向

＜ 米国 ＞ 単収の引下げを受け、生産量は 2.6 百万トン下方修正

【生育・生産状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、収穫面積の減少により前年度より 1.7%減の 114.5 百万トンの見通し。今年度第 1 回目の作柄実績調査によれば、単収が前月予測から 0.08 トン/ヘクタール引下げられたため、生産量は前月予測から 2.6 百万トン下方修正された。

USDA「Crop Progress」（2023.8.14）によれば、主要 18 州における 8 月 13 日現在の着莢進捗率は 78%と、前年同時期（72%）、過去 5 年平均（75%）を上回っている。また、作柄評価の「良～やや良」の比率は 59%となり、前年同時期（58%）を上回っている。6 月中旬の乾燥の影響で 7 月 2 日には 50%まで悪化したものの、7 月から 8 月上旬にかけての降雨を受け前年同時期並みに改善した。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、バイオ燃料・飼料用需要増による搾油の収益改善の見通しから、前年度より 3.6%増の 66.0 百万トンで史上最高の見込み。環境志向の高まりを受けて、バイオ燃料向けの搾油工場の新設による需要増が見込まれているものの、米国政府が 6 月 21 日に発表した最終的なバイオ燃料の混合義務は 2022 年に 2.82 億ガロン/年、2025 年に 3.35 億ガロン/年と、搾油工場の新設による供給増に見合うほど高くなく市場予測を下回った。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、生産量の下方修正による供給減により前月予測から 0.7 百万トン下方修正され、前年度より 7.8%減の 49.7 百万トンの見込み。史上最高の豊作見通しとなったブラジル産と比べ相対的な価格競争力が落ちていることが要因とみられる。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、単収の引下げを受け生産量が下方修正されたことにより、前月予測から 1.5 百万トン下方修正され、前年度より 5.8%減の 6.7 百万トンとなる見込み。期末在庫率は前月予測から 1.2 ポイント減の 5.8%で、引き続き低水準に留まる見通し。

USDA によれば、2023 年輸出量（2023 年 1 月 1 日～7 月 31 日）は 21.4 百万トンと、前年度同時期（2022 年 1 月 1 日～8 月 8 日）の 23.6 百万トンを下回っている。内訳は中国（11.0 百万トン）、メキシコ（2.3 百万トン）、ドイツ（1.7 百万トン）の順。

大豆－米国

（単位：百万トン）

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年 9 月～24年 8 月）		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	121.5	116.4	114.5	▲ 2.6	▲ 1.7
消 費 量	62.9	63.7	66.0	－	3.6
うち搾油用	60.0	60.4	62.6	－	3.6
輸 出 量	58.6	53.9	49.7	▲ 0.7	▲ 7.8
輸 入 量	0.4	0.8	0.8	0.3	－
期末在庫量	7.5	7.1	6.7	▲ 1.5	▲ 5.8
期末在庫率	6.1%	6.0%	5.8%	▲ 1.2	▲ 0.3

（参考）

収穫面積(百万ha)	34.93	34.94	33.47	－	▲ 4.2
単収(t/ha)	3.48	3.33	3.50	▲ 0.08	5.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（11 August 2023）

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル > 2022/23 年度の収穫はほぼ完了し、生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 10 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、作付面積が史上最大となる見通しから、前年度より 4.5%増の 163.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社 (CONAB) 月例報告 (2023.8.10) によれば、2022/23 年度の実産量は、前年度より 23.1%増の 154.6 百万トンと史上最高の見通し。最大生産州のマト・グロッソ州では、栽培技術の改善と良好な天候に恵まれ、増産となった。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料向けの大豆粕需要が増加することから、前年度より 5.1%増の 59.7 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、2 年連続で生産量が史上最高を更新し、価格競争力が高まる見込みから、前年度より 2.7%増の 96.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2023 年 1～7 月の輸出量は 73.5 百万トンで、前年同期 (60.5 百万トン) に比べ 21.5%増となっている。輸出先は、中国 (50.4 百万トン)、アルゼンチン (3.5 百万トン)、スペイン (2.4 百万トン) の順。堅調な中国向け輸出に加え、干ばつにより減産したアルゼンチンへの搾油用需要を満たすための輸出が大幅に増加した。

2023 年 6 月、北部のマラニョン州イタキ北部港とサンパウロ州サントス港を結ぶ南北鉄道が開通した。南北鉄道が稼働することで、最大生産州のマト・グロッソ州等の内陸の大豆・とうもろこしを効率的に輸送し、輸出のボトルネックを回避する一助になることが期待されている。

なお、「OIL WORLD Weekly」(2023.8.4) によれば、ブラジルの輸出港におけるとうもろこし輸出は既に本格化しており、とうもろこし輸出量は今後大豆輸出量を超えるとみられる。今後、ブラジルの輸出港のキャパシティについて、引き続き注視する必要がある。

大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	130.5	156.0	163.0 (160.0)	-	4.5	
消 費 量	54.0	56.8	59.7 (59.6)	-	5.1	
うち搾油用	50.7	53.0	55.8 (56.3)	-	5.2	
輸 出 量	79.1	94.0	96.5 (97.9)	-	2.7	
輸 入 量	0.5	0.2	0.5 (0.3)	-	200.0	
期末在庫量	27.6	33.0	40.2 (10.1)	▲ 0.1	22.0	
期末在庫率	20.7%	21.9%	25.7% (6.4%)	▲ 0.1	3.9	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.60	43.90	45.60 (41.49)	-	3.9	
単収(t/ha)	3.14	3.55	3.57 (3.86)	-	0.6	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(11 August 2023)
IGC「Grain Market Report」(20 July 2023)

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2022/23年度の実産量は、2022年9月以降、順次開始。
2023年2月以降、大豆の収穫が行われ、その後、一部の圃場で冬とうもろこしを栽培。

2022/23年度	2022年												2023年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし																					
冬とうもろこし																					
大豆																					

資料：CONAB穀物レポート (2023.8.10)

＜ アルゼンチン ＞ 2022/23 年度の輸入量は、減産により史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDA によれば、本年 11 月以降作付けが開始される 2023/24 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、高温・乾燥の影響を大きく受けた前年度から回復する見通しから、92.0%増の 48.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2023.6.29）によれば、収穫が終了した 2022/23 年度の生産量は 21.0 百万トンと、過去 5 年平均（45.0 百万トン）より 53%減の低水準となった。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、増産に伴い搾油量が回復することから、前年度比 17.7%増の 43.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、国内生産量の増加に伴い輸入需要が減少することから、前年度より 38.0%減の 5.7 百万トンの見込み。

2022/23 年度の輸入量は、国内生産が減少したことを受け、搾油用需要を満たすためにブラジル産及びパラグアイ産の輸入が急増したため、0.5 百万トン上方修正され、9.2 百万トンで史上最高の見込み。アルゼンチン国家統計局によれば、2023 年 4～6 月の輸入量は 432.0 万トンで、前年同時期（157.6 万トン）の 2.7 倍。

2023/24 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、干ばつにより減産し価格競争力が弱まった前年度から生産量が回復する見込みから、前年度より 17.9%増の 4.6 百万トンの見込み。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆最大 33%、大豆油及び大豆粕 31%と設定。2022 年 3 月に、大豆油及び大豆粕の輸出税について 2022 年末まで 2%引き上げたが、2023 年 1 月からは 31%に戻している。

アルゼンチン政府は、今般の干ばつ対策として、農業関係者に対し、融資や減税、割引手形の発行、各種税の支払い猶予措置などの救済施策を発表した。

なお、外貨獲得のため、4 月 10 日から 5 月 31 日までの間の 45 日間を超えない範囲で、大豆優遇為替レート（1 ドル＝300 ペソ）を適用した。

7 月 25 日、アルゼンチン政府は、輸出促進プログラムを発表し、優遇為替レート（1 ドル＝340 ペソ）（期限は 8 月 31 日まで）を発表したが、大豆は対象品目に含まれておらず、今後の動向を注視する必要がある。

大豆－アルゼンチン

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年10月～24年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	43.9	25.0	48.0 (44.0)	-	92.0	
消 費 量	46.0	36.5	43.0 (42.8)	-	17.7	
うち搾油用	38.8	30.3	36.3 (39.0)	-	19.8	
輸 出 量	2.9	3.9	4.6 (5.1)	-	17.9	
輸 入 量	3.8	9.2	5.7 (5.5)	-	▲ 38.0	
期末在庫量	23.9	17.7	23.9 (3.6)	0.2	34.7	
期末在庫率	48.9%	43.8%	50.2% (7.6%)	0.3	6.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	15.90	15.00	16.40 (15.87)	-	9.3	
単収(t/ha)	2.76	1.67	2.93 (2.77)	-	75.4	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」 (20 July 2023)

表：アルゼンチン大豆輸入量、輸入先国
（4 月以降、ブラジル産及びパラグアイ産の
輸入が急増）

2022/23年度 (2023年 4 月～6 月)			対前年度 同時期比 (%)
国名	輸入量 (万 t)	シェア (%)	
ブラジル	232.3	53.8	1,278.6
パラグアイ	178.7	41.4	149.7
ボリビア	21.1	4.9	25.4
計	432.0	100.0	174.1

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）のデータ
をもとに農林水産省で作成。

＜ 中国 ＞ 2023/24 年度の生産量・消費量は史上最高

【生産・生育状況】USDA によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、単収が減少するものの、収穫面積が増加することから、全体として前年度より 1.1%増の 20.5 百万トンで史上最高の見込み。

2 月 13 日に公表された中国共産党・国務院（内閣に相当）の中央 1 号文件には、引き続き大豆の作付け拡大の取組等について記載された。

なお、7 月末現在、主産地の東北地区の黒竜江省等では莢伸長期を迎えている。

USDA によれば、7 月に黒竜江省南西部で降雨過多があった。ただし、降雨状況にばらつきがあり、黒竜江省北部では平年より降雨が少ない状況となっている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、国内の大豆粕及び食料の需要が増加することにより、前年度より 3.8%増の 118.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 1.0%減の 99.0 百万トンと高水準を維持している。

農業農村部によれば、2023 年 1 ～ 6 月の間の輸入量は、前年同時期より 13.6%増の 5,257.6 百万トン。内訳は、ブラジル（2,968.2 百万トン）、米国（1,971.1 百万トン）、アルゼンチン（142.9 百万トン）の順。6 月のブラジル産輸入量は 953.3 百万トン（前年同時期比 31.7%増）。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2023 年 6 月号」によれば、6 月の輸入価格（山東省の輸入大豆価格）は、前月（5,040 元/トン）から上昇し、5,060 元/トンとなった。6 月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）も、前月（5,720 元/トン）から上昇し、5,740 元/トンとなった。黒竜江省等の産地で備蓄用の買入需要にも支えられ、わずかに上昇した。

USDA によれば、2023/24 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 3.8%増の 38.2 百万トンで史上最高の見込み。2023/24 年度の期末在庫率は、前月予測からの変更はなく、前年度並みの 32.3%となる見込み。

大豆－中国

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24（23年10月～24年9月）			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	16.4	20.3	20.5 (21.5)	－	1.1	
消 費 量	108.4	113.7	118.0 (117.4)	－	3.8	
うち搾油用	87.9	92.0	95.0 (97.5)	－	3.3	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	－	▲ 23.1	
輸 入 量	91.6	100.0	99.0 (97.8)	－	▲ 1.0	
期末在庫量	30.3	36.8	38.2 (32.5)	－	3.8	
期末在庫率	27.9%	32.3%	32.3% (27.6%)	－	0.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.42	10.24	10.45 (8.40)	－	2.1	
単収(t/ha)	1.95	1.98	1.96 (1.95)	－	▲ 1.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (11 August 2023)
IGC 「Grain Market Report」 (20 July 2023)

表：中国の大豆輸入量と輸入先国

2023年 6 月			2023年 1 月～2023年 6 月			2022年 1 月～2022年 6 月		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	953.3	92.8	ブラジル	2968.2	56.5	ブラジル	2770.3	59.9
米国	52.8	5.1	米国	1971.1	37.5	米国	1754.2	37.9
ロシア	15.1	1.5	アルゼンチン	142.9	2.7	ロシア	30.0	0.6
エチオピア	2.1	0.2	カナダ	92.7	1.8	カナダ	26.3	0.6
ベナン	1.9	0.2	ロシア	63.5	1.2	ベナン	15.7	0.3
タンザニア	0.9	0.1	エチオピア	7.3	0.1	ウルグアイ	14.2	0.3
その他	0.9	0.0	その他	11.9	0.1	その他	17.2	0.3
計	1027.0	100	計	5257.6	100	計	4627.9	100

資料：中国農業農村部資料をもとに農林水産省で作成

＜ カナダ ＞ 作付面積の増加により、生産量は前年度から 6.1%増

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2023.8.18）によれば、2023/24 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 6.1% 増の 6.9 百万トンの見込み。単収が 3.01 トン/ヘクタールと、高水準の単収だった前年度より低下するものの、収穫面積が 2.28 百万ヘクタールと前年度より 7.6%増と大幅に増加することによる。

USDA によれば、主産地のカナダ東部では、8 月 6 日～12 日にかけて降雨があり、着莢期を迎えている大豆の生育に適した天候となっているとみられる。

カナダの大豆生産は、小麦やなたねと異なり、東部のオンタリオ州が主産地で、生産量の半分以上のシェアを占める。このほか、オンタリオ州に隣接するマニトバ州、ケベック州でも生産されている。

【需要状況】USDA によれば、2023/24 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度から 2.7%増の 2.7 百万トンの見込み。バイオ燃料需要増による搾油の収益改善が見込まれていることによる。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2023/24 年度の実輸出量は、前月予測からの変更はなく、増産による輸出余力の増大を受けて、前年度より 5.8%増の 4.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会（Canadian Grain Commission）によれば、2022/23 年度（2022 年 8 月～2023 年 7 月）のうち、2022 年 8 月～2023 年 6 月の輸出量は 310.8 万トンで、前年度同時期（281.2 万トン）を上回っている。国別では、中国向け（128.8 万トン）が 41%を占め、続いてイラン（49.0 万トン）、アルジェリア（36.5 万トン）、イタリア（25.1 万トン）の順。

なお、カナダ産大豆は、主産地が小麦や菜種と異なりカナダ東部のため、カナダ産の主要な輸送ルートは、五大湖を通過してパナマ運河から東アジアに輸出されるルートとなっている。

AAFC によれば、2023/24 年度の実在庫量は、前月予測からの変更はなく、供給増から前年度から 14.3%増の 0.4 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

年 度	2021/22	2022/23 (見込み)	2023/24 (23年8月～24年7月)			
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	6.2	6.5	6.7 (6.9)	-	-	2.4
消 費 量	2.3	2.6	2.7 (2.5)	-	-	2.7
うち搾油用	1.8	1.8	1.9 (1.9)	-	-	3.8
輸 出 量	4.3	4.3	4.6 (4.8)	-	-	5.8
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.5)	-	▲	6.5
期末在庫量	0.4	0.6	0.6 (0.4)	0.1	-	-
期末在庫率	6.5%	9.1%	8.7% (5.5%)	0.8	▲	0.4

(参考)

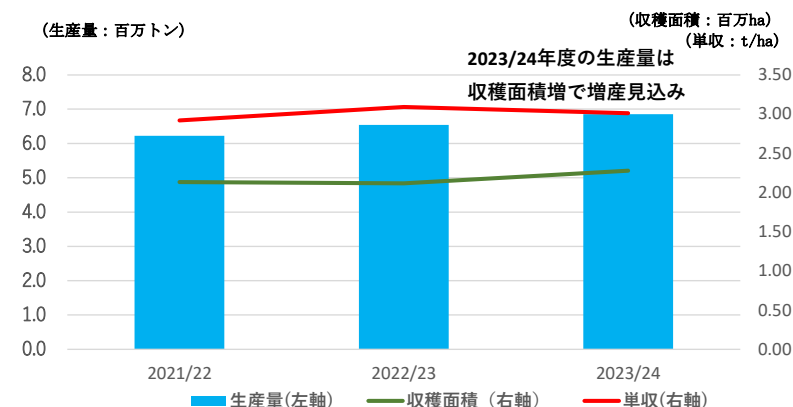
収穫面積(百万ha) 2.08 2.12 2.25 (2.28)
単収(t/ha) 2.99 3.09 2.98 (3.01)

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(11 August 2023)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(18 August 2023)

図：カナダの直近3か年の生産量等の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2023.8.18)をもとに農林水産省にて作成。

(参考1)本レポートに使用されている各国の穀物年度について（2023/24年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	23年6月～24年5月	23年9月～24年8月	23年8月～24年7月	23年9月～24年8月
カナダ	23年8月～24年7月			23年8月～24年7月
豪州	23年10月～24年9月		24年3月～25年2月	
EU	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
中国	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月
ロシア	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		23年9月～24年8月
ウクライナ	23年7月～24年6月	23年10月～24年9月		
ブラジル		24年3月～25年2月	24年4月～25年3月	23年10月～24年9月
アルゼンチン	23年12月～24年11月	24年3月～25年2月		23年10月～24年9月
タイ			24年1月～12月	
インド	23年4月～24年3月		23年10月～24年9月	
ベトナム			24年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
 例えば、2023/24年度は、米国の小麦では2023年6月～2024年5月、ブラジルのとうもろこしでは2024年3月～2025年2月です。
 なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel (ブッシェル) (穀物により異なる)	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

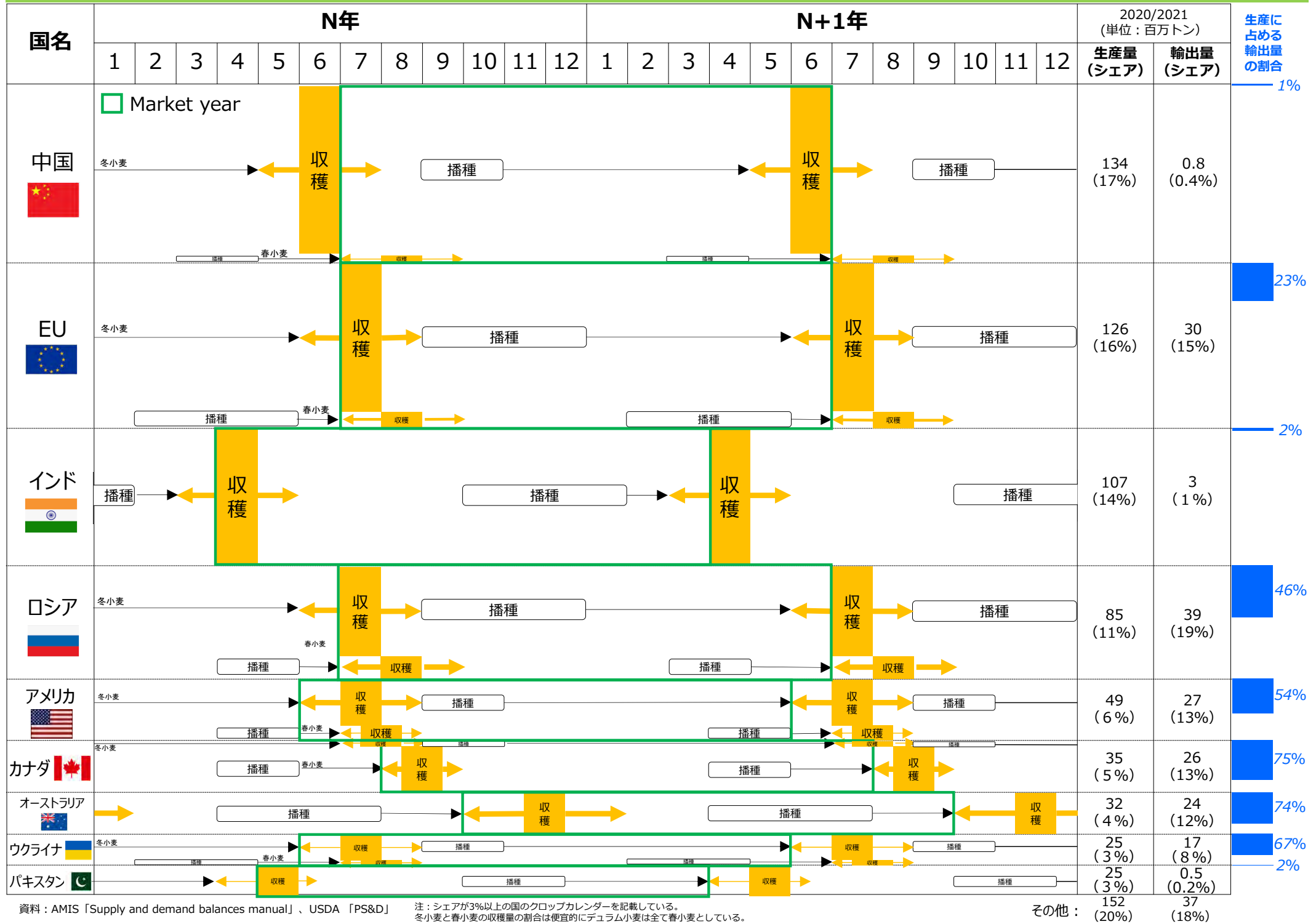
3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロープカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



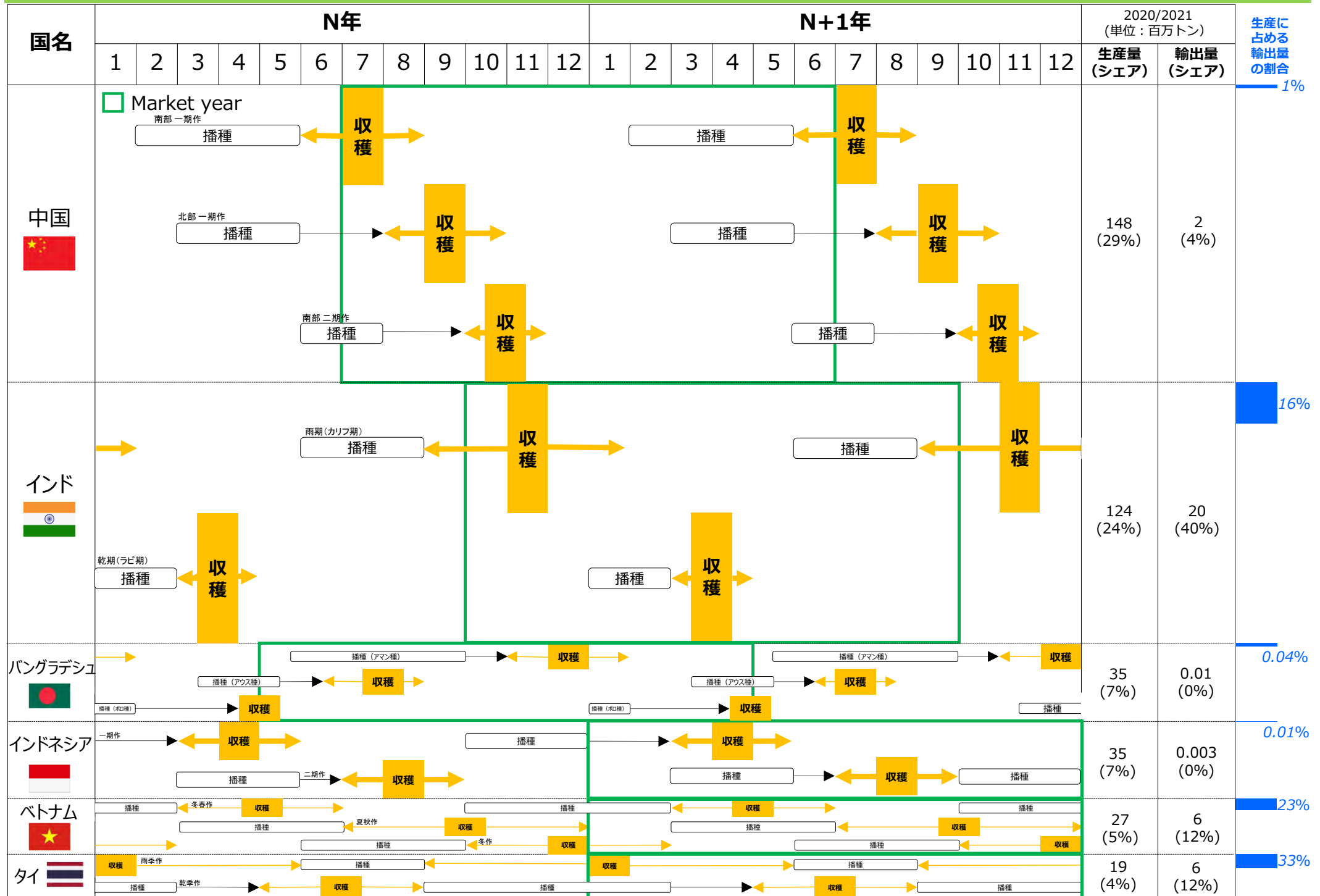
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

その他：

主要生産国のクロップカレンダー(米)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

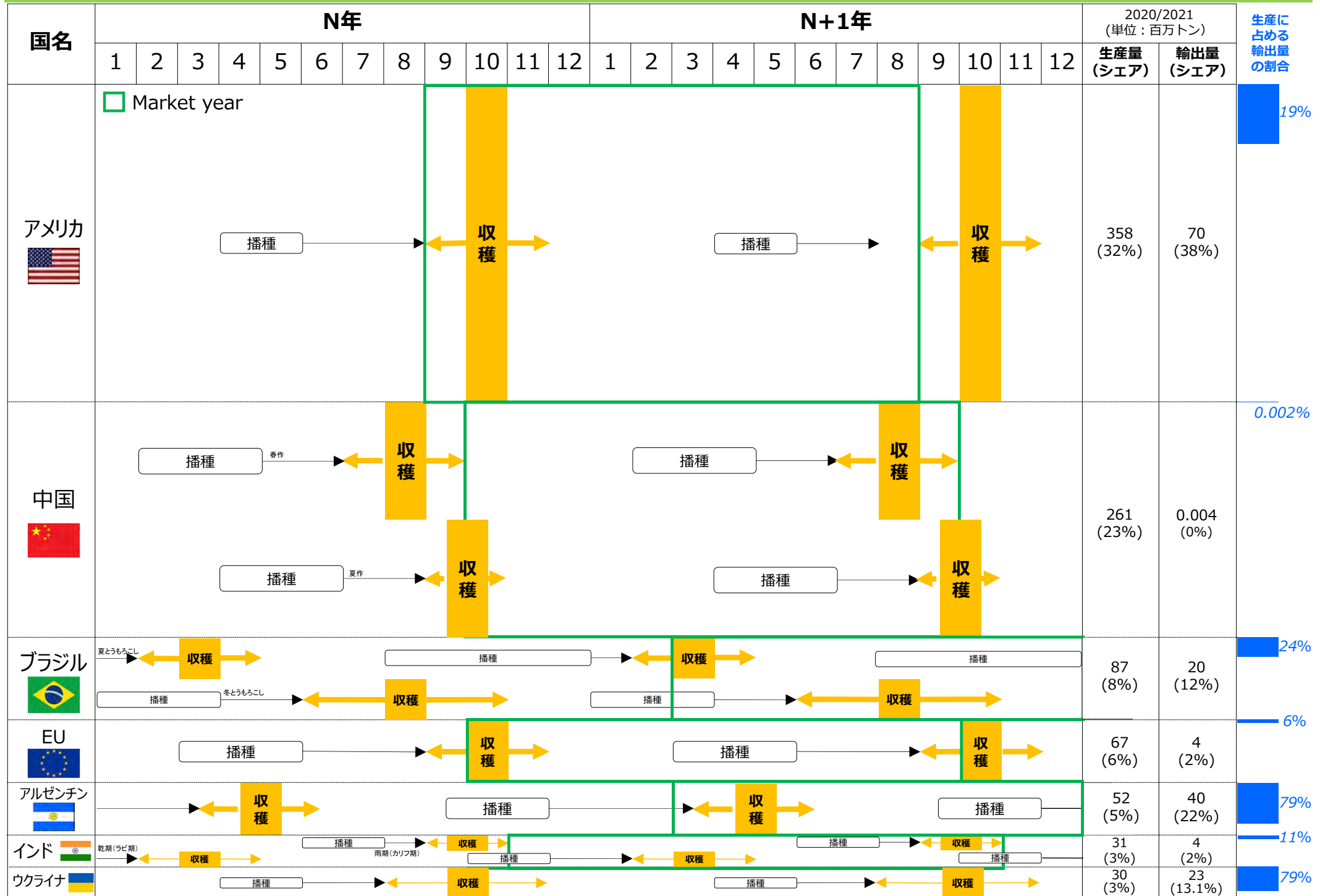
その他：

121
(24%)

16
(32%)

主要生産国のクロープカレンダー(とうもろこし)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



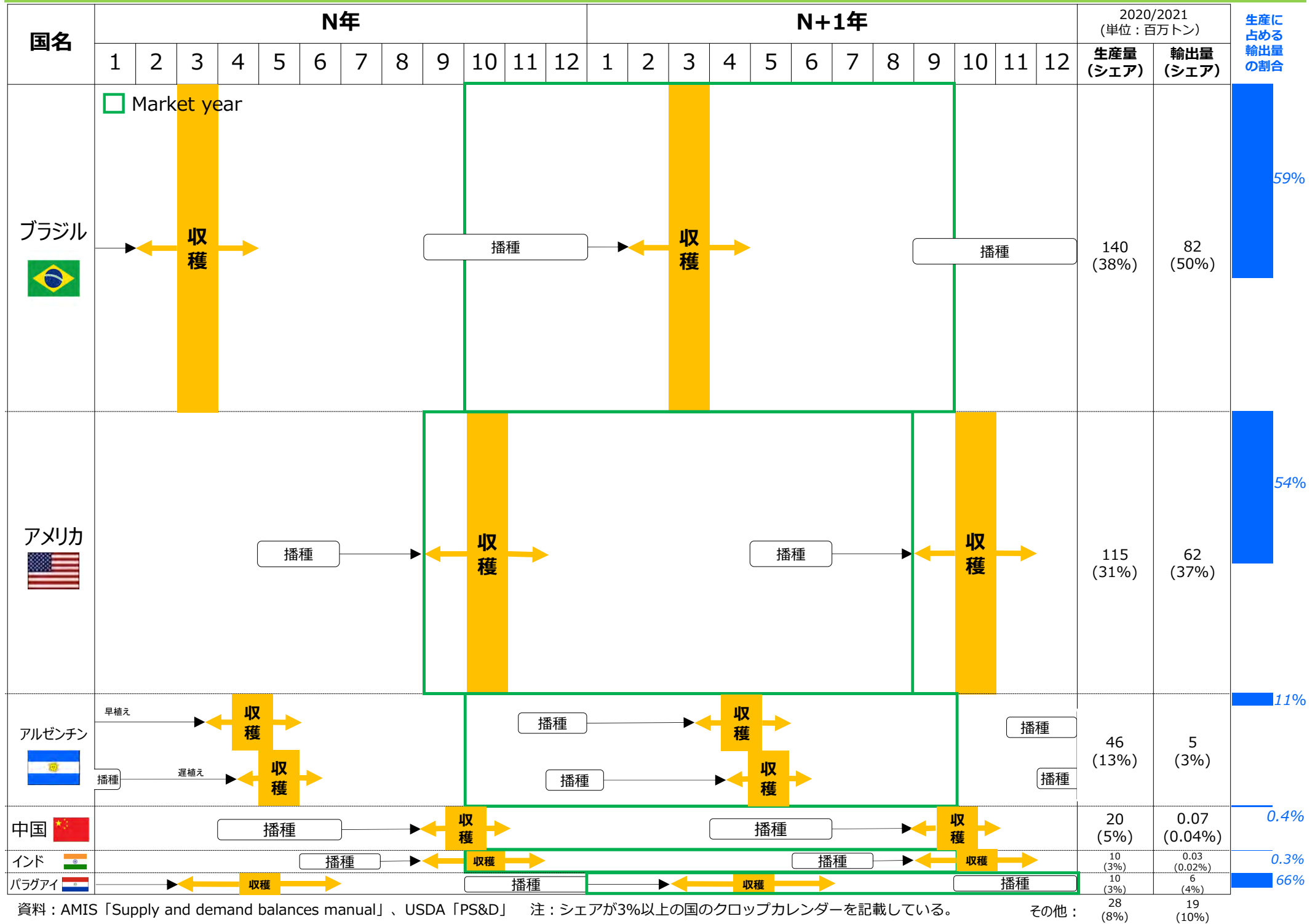
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」

注：シェアが3%以上の国のクロープカレンダーを記載している。

その他：242 (19%) 21 (11%)

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

